

Ⅱ 調査結果の分析

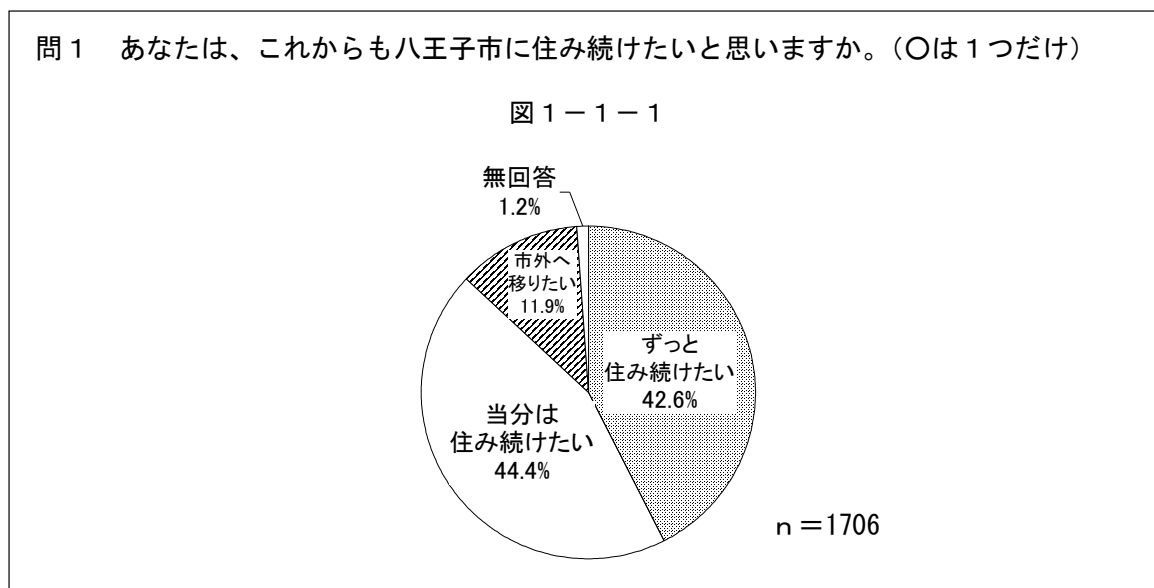
Ⅱ 調査結果の分析

第1章

1. 定住意向

1-1 定住意向

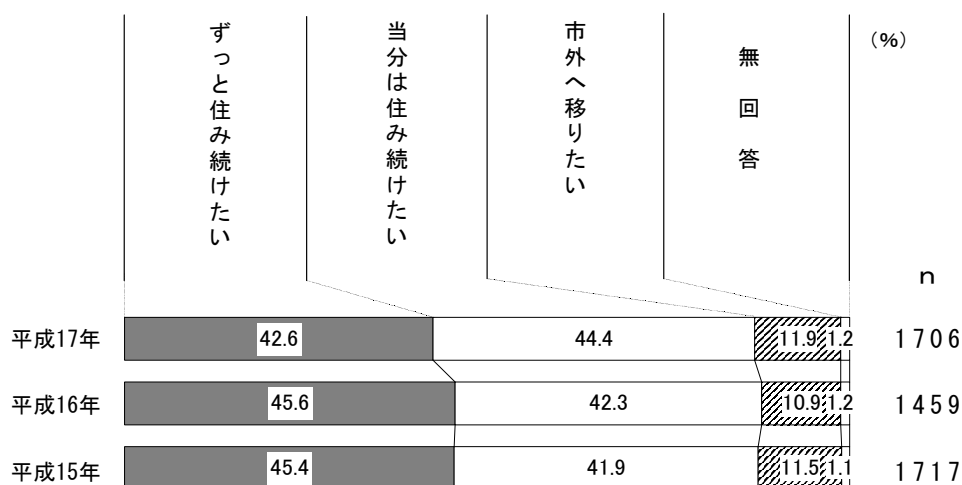
◇『住み続けたい』が9割近くを占める



市への定住意向について聞いたところ、「当分は住み続けたい」(44.4%)が4割半ばで最も高く、「ずっと住み続けたい」(42.6%)を合わせると、『住み続けたい』(87.0%)が9割近くを占める。また、「市外へ移りたい」(11.9%)は1割程度にとどまっている。(図1-1-1)

過去の調査と比較すると、今回は平成16年より「ずっと住み続けたい」は3ポイント減少しているものの、「当分は住み続けたい」は2ポイント増加しており、これらを合わせた『住み続けたい』は9割近くと高い水準を維持している。(図1-1-2)

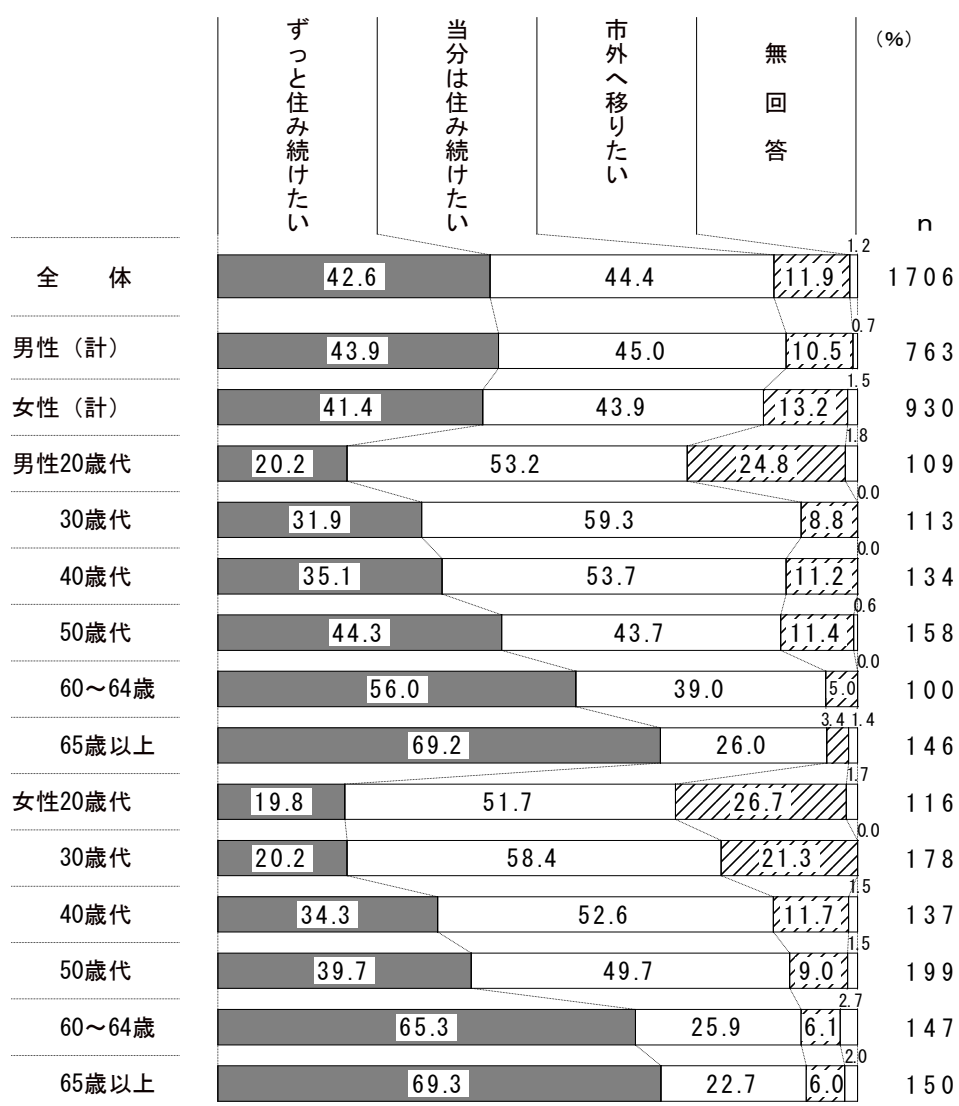
図1-1-2 定住意向一経年比較



性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

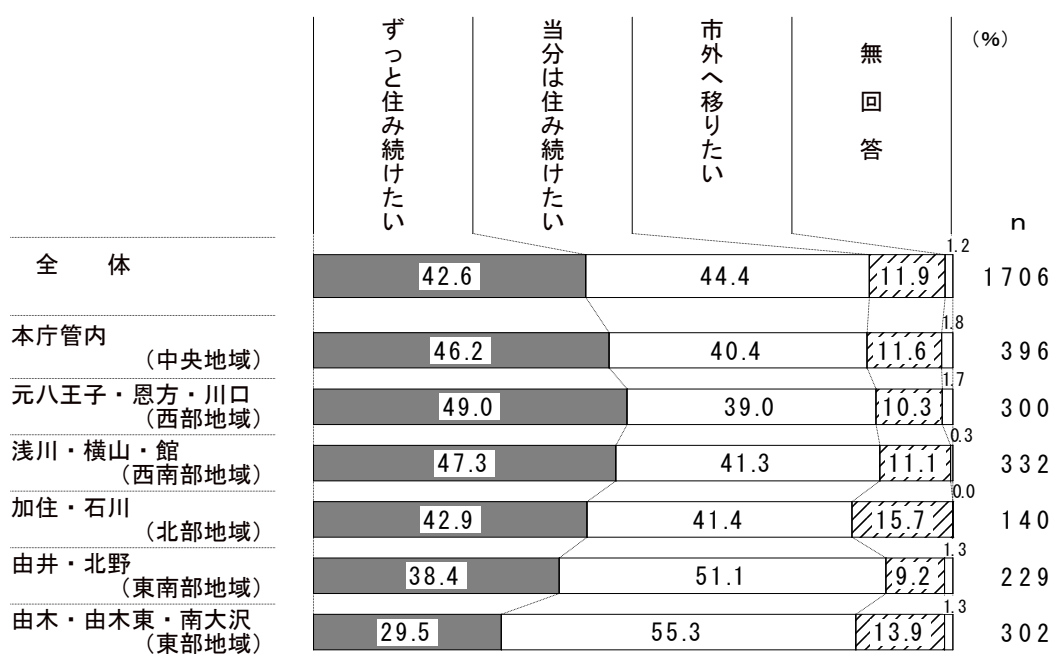
性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に男性65歳以上と女性60歳以上の年代においては、男女ともに6割以上を占め高くなっている。また、「市外へ移りたい」は男性20歳代と女性20歳代から30歳代の年代で2割以上と、他の年齢層と比べ高くなっている。(図1-1-3)

図1-1-3 定住意向一性・年齢別



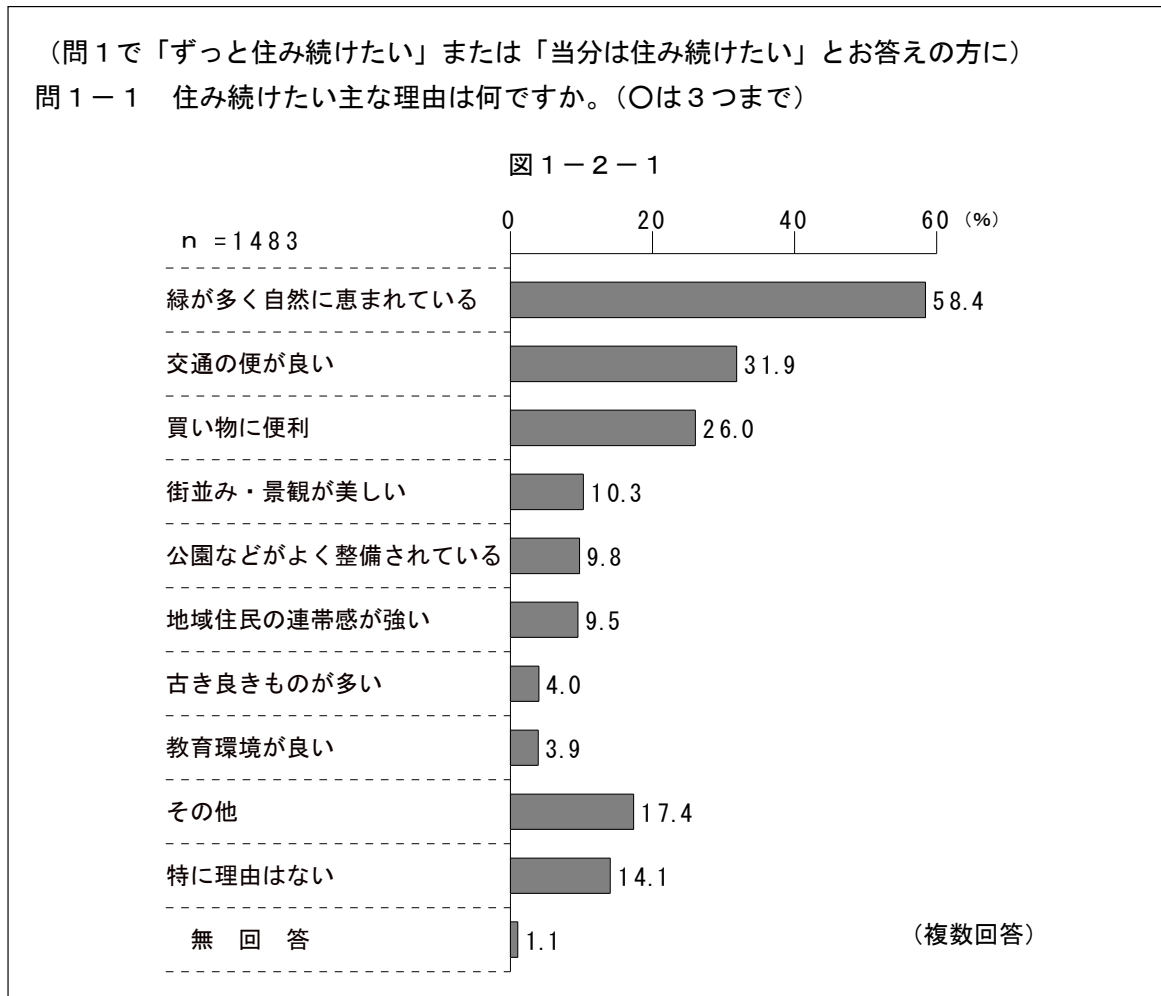
居住地域別にみると、『住み続けたい』はすべての地域で8割以上を占め高くなっている。また、「ずっと住み続けたい」は本庁管内（中央地域）、元八王子・恩方・川口（西部地域）、浅川・横山・館（西南部地域）で5割近くと高くなっている。一方、由井・北野（東南部地域）は4割近く、由木・由木東・南大沢（東部地域）は3割と他の地域より低くなっている。（図1-1-4）

図1-1-4 定住意向－居住地域別



1-2 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が半数を超え、突出している



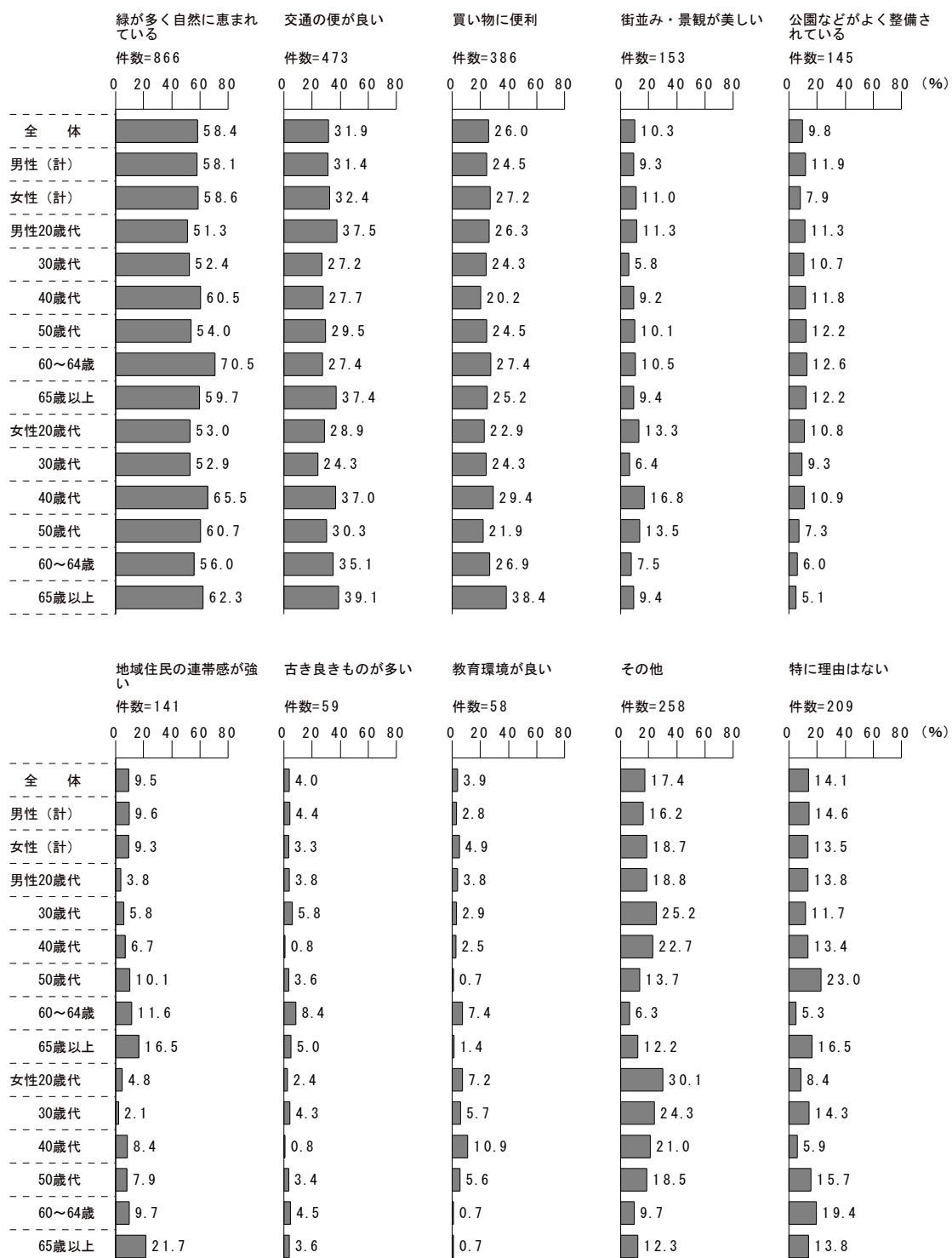
八王子市への定住意向で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と答えた人(1,483人)に、住み続けたい理由について聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」(58.4%)が6割近くと最も高く、次いで「交通の便が良い」(31.9%)、「買い物に便利」(26.0%)などの順となっている。(図1-2-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男性60歳～64歳でほぼ7割と高く、「買い物に便利」は女性65歳以上で4割近くと高くなっている。「地域住民の連帯感が強い」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、また女性65歳以上で2割を超え高くなっている。

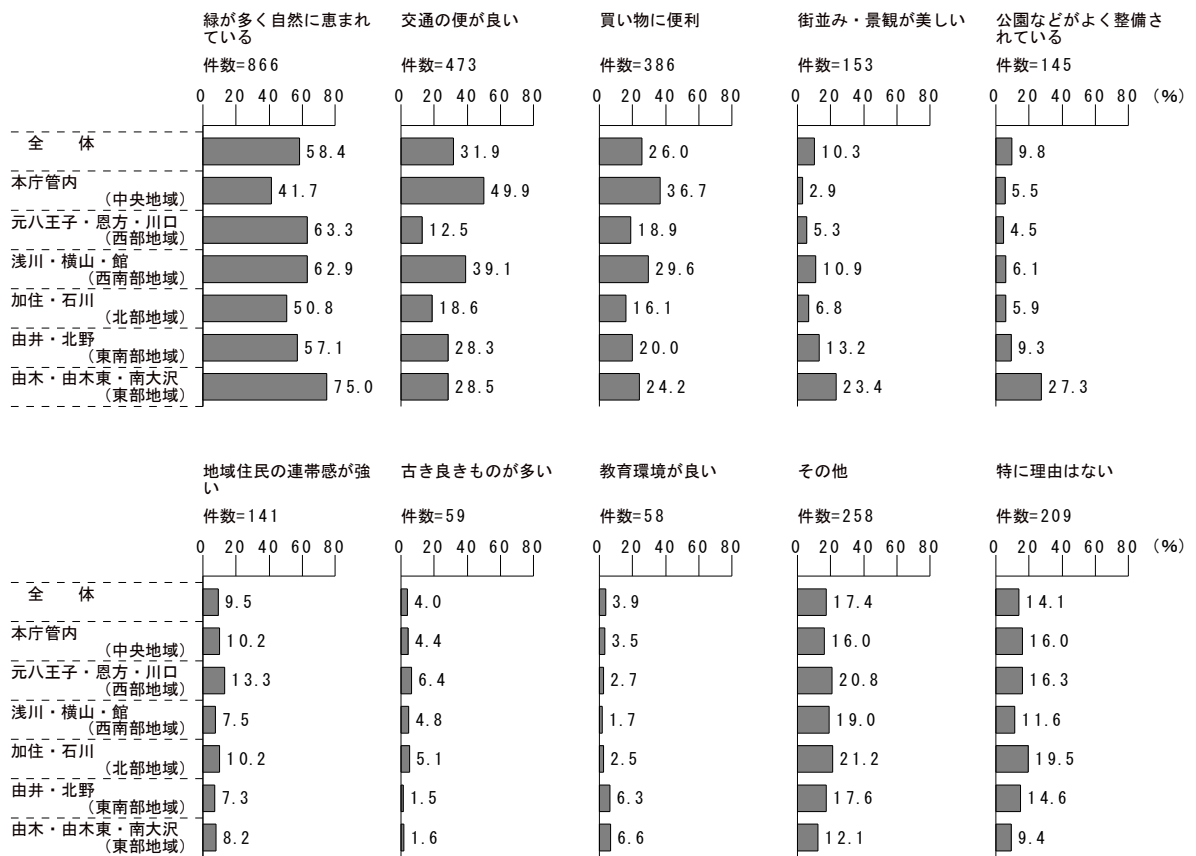
(図1-2-2)

図1-2-2 住み続けたい理由—性・年齢別



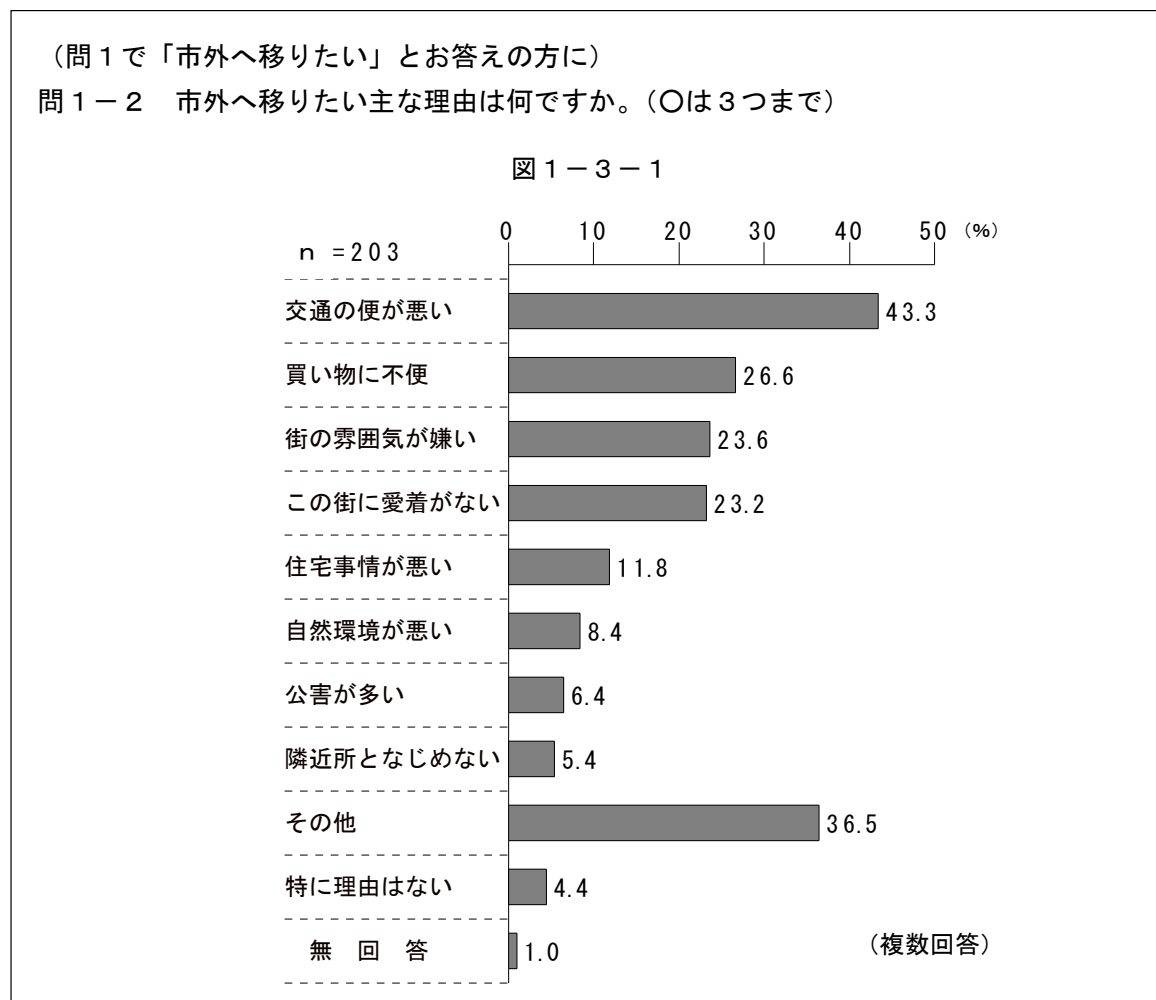
居住地域別にみると、本庁管内（中央地域）では「交通の便が良い」で5割、「買い物に便利」で4割近くと高くなっている。由木・由木東・南大沢（東部地域）では「緑が多く自然に恵まれている」で7割半ば、「街並み・景観が美しい」で2割を超え、「公園などがよく整備されている」で3割近くと高くなっている。（図1-2-3）

図1-2-3 住み続けたい理由—居住地域別



1-3 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が4割を超える



八王子市への定住意向で「市外へ移りたい」と答えた人(203人)に、市外へ移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」(43.3%)が4割を超え最も高く、次いで「買い物に不便」(26.6%)、「街の雰囲気が嫌い」(23.6%)、「この街に愛着がない」(23.2%)、「住宅事情が悪い」(11.8%)などの順となっている。(図1-3-1)

性別にみると、「交通の便が悪い」で7ポイント、「自然環境が悪い」で5ポイント、それぞれ男性の方が高く、「買い物に不便」で女性の方が5ポイント高くなっている。(図1-3-2)

居住地域別にみると、本庁管内(中央地域)では「街の雰囲気が嫌い」がほぼ4割と高い。元八王子・恩方・川口(西部地域)では「交通の便が悪い」が7割を超え、「買い物に不便」が4割近くと高い。加住・石川(北部地域)では「交通の便が悪い」がほぼ6割、「買い物に不便」が4割半ば、「住宅事情が悪い」が2割を超え高い。由木・由木東・南大沢(東部地域)では「この街に愛着がない」が3割を超え高い。(図1-3-3)

図 1-3-2 市外へ移りたい理由—性別

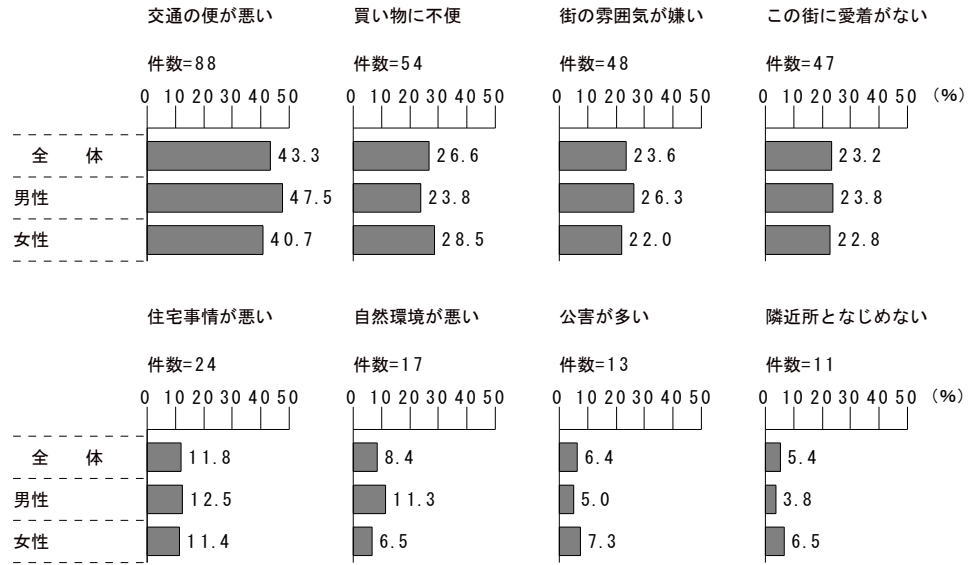
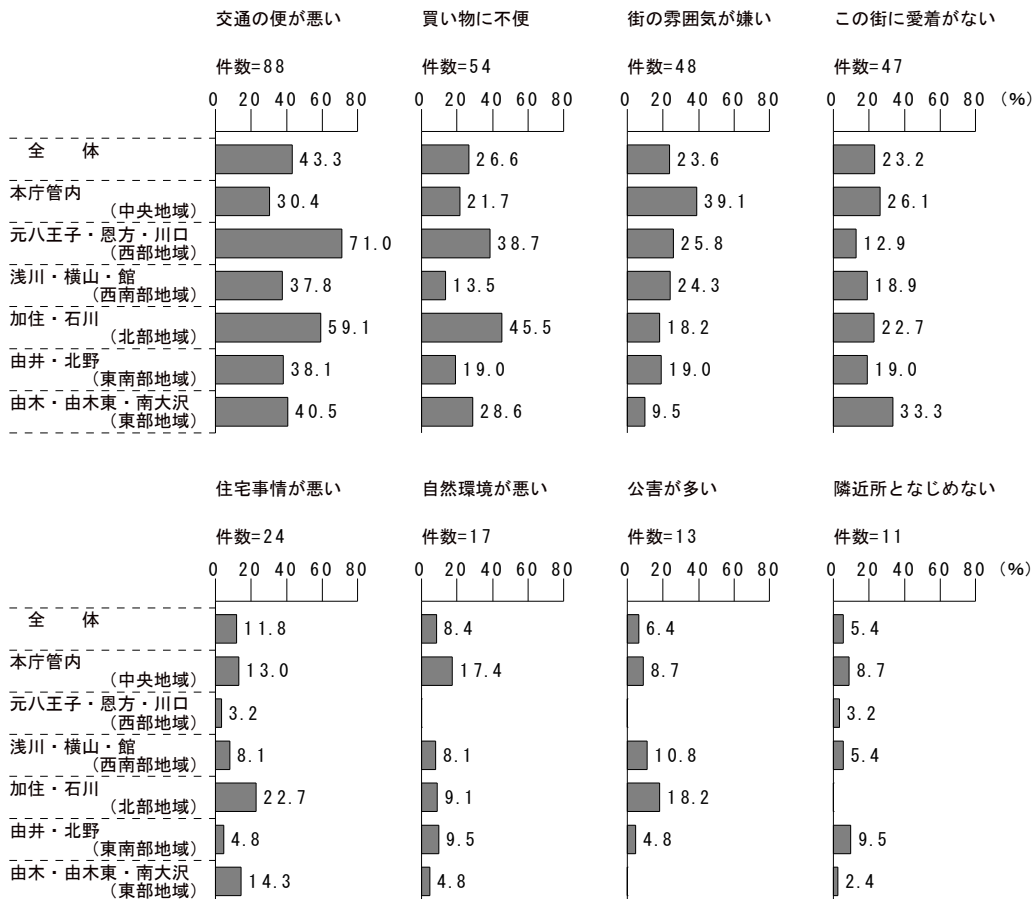


図 1-3-3 市外へ移りたい理由—居住地域別



2. 生活環境

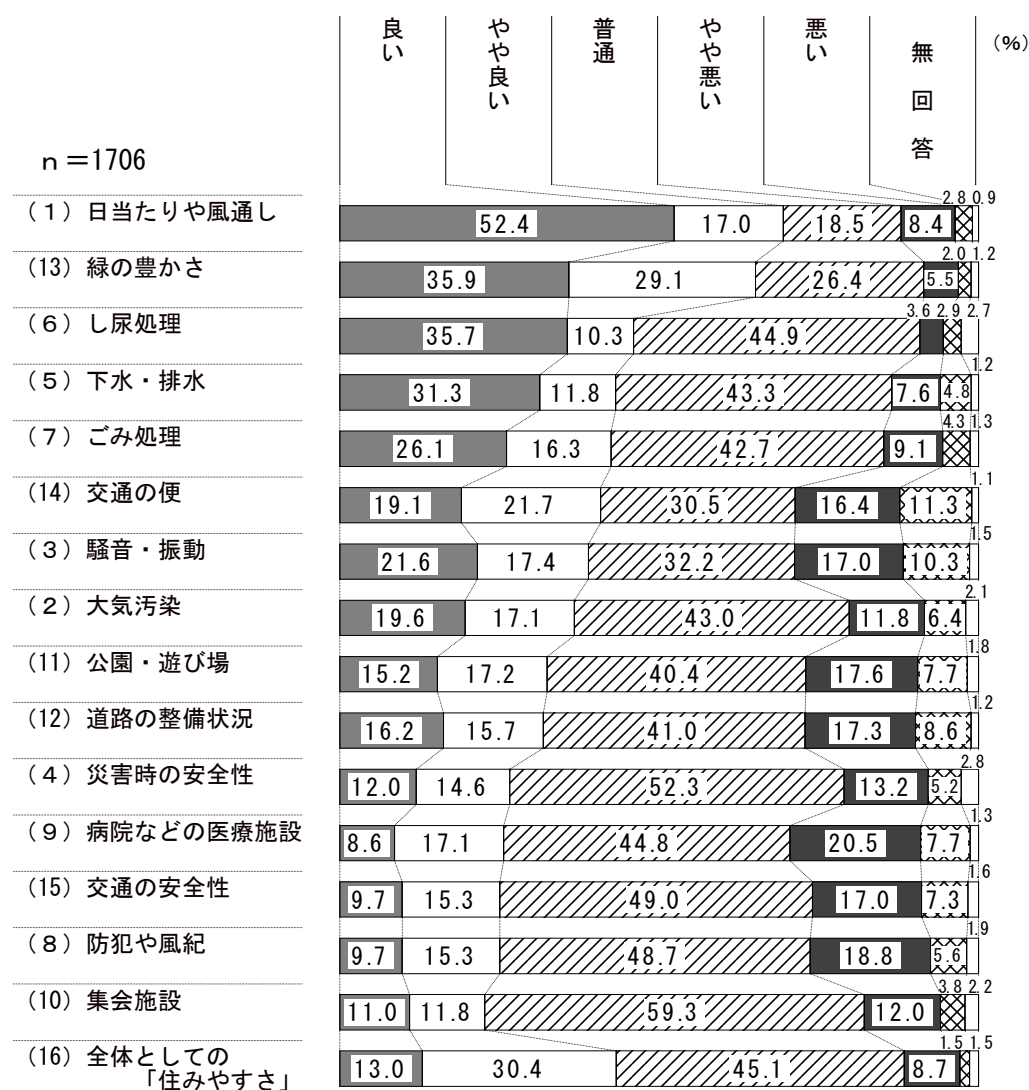
2-1 生活環境の評価

◇「日当たりや風通し」、「緑の豊かさ」の2項目が飛び抜けて評価が高い

問2 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-1-1



【(16) 全体としての「住みやすさ」】を除き、「良い」と「やや良い」の合算で比率の高い順に並べた。

■評価順位

生活環境を 15 の項目に分け、それぞれの評価を聞いた。

「良い」と「やや良い」の合計を【良い】とし、「やや悪い」と「悪い」の合計を【悪い】とみなした場合の、それぞれの上位 5 項目をあげると次のようになっている。(図 2-1-1)

【良 い】		【悪 い】	
①日当たりや風通し	(69.4%)	①病院などの医療施設	(28.2%)
②緑の豊かさ	(65.0%)	②交通の便	(27.7%)
③し尿処理	(46.0%)	③騒音・振動	(27.3%)
④下水・排水	(43.1%)	④道路の整備状況	(25.9%)
⑤ごみ処理	(42.4%)	⑤公園・遊び場	(25.3%)

なお、【(16) 全体としての「住みやすさ」】は、【良い】(43.4%) が 4 割を超え、【悪い】(10.2%) が 1 割と、【良い】の方が 33 ポイント高くなっている。

加重平均値 (満足度)

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = (\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \\ + \text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は 5.00 点～1.00 点の間に分布し、中間点の 3.00 点を境に、5.00 点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に 1.00 点に近くなるほど不満足度が高くなる。

■満足度順位

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの上位 5 項目は次のようになっている。

(図 2-1-2)

上 位		下 位	
①日当たりや風通し	(4.09 点)	①病院などの医療施設	(2.98 点)
②緑の豊かさ	(3.93 点)	②交通の安全性	(3.03 点)
③し尿処理	(3.74 点)	③防犯や風紀	(3.05 点)
④下水・排水	(3.58 点)	④集会施設	(3.14 点)
⑤ごみ処理	(3.51 点)	④道路の整備状況	(3.14 点)

図 2-1-2 生活環境の評価点

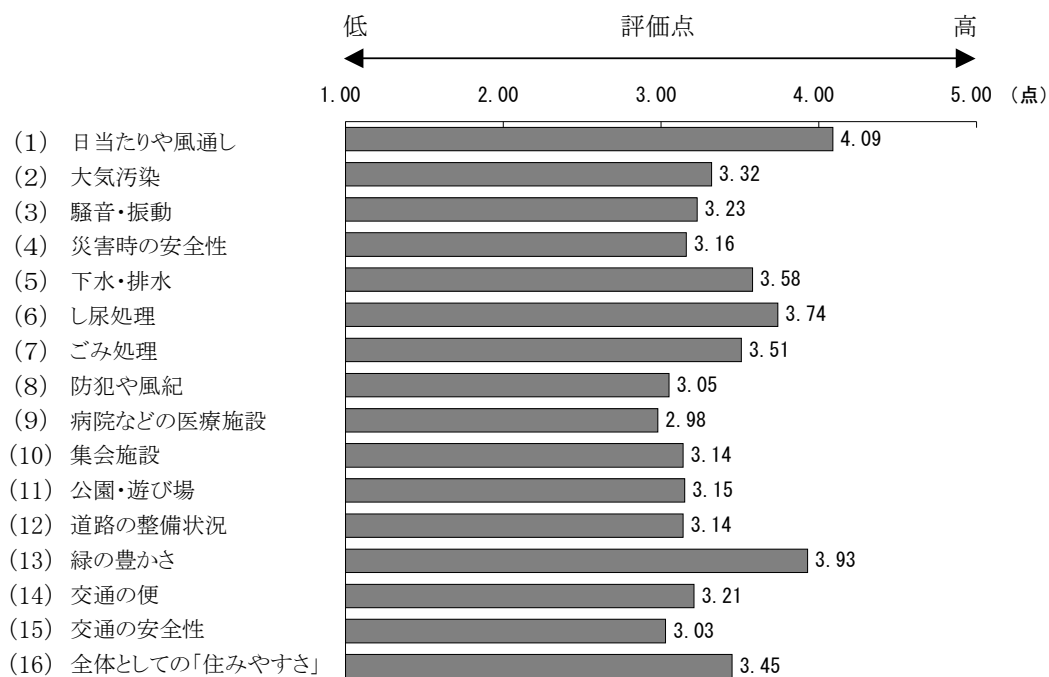


表 2-1-1 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別

	全体	評価点					
		本庁管内 中央地域	元八王子・ 恩西部 方部 川域 口	浅川・ 横山 ・西 ・南 館部 地域	加住・ 石川 北部 地域	由井・ 北野 東南 部地 域	由木・ 由木 東東 ・部 南地 大域 沢
(1) 日当たりや風通し	4.09	3.82	4.13	4.17	4.12	4.13	4.28
(2) 大気汚染	3.32	2.92	3.43	3.45	2.96	3.45	3.68
(3) 騒音・振動	3.23	2.87	3.53	3.35	2.61	3.38	3.47
(4) 災害時の安全性	3.16	2.97	3.20	3.23	3.01	3.24	3.28
(5) 下水・排水	3.58	3.56	3.16	3.71	3.55	3.77	3.74
(6) し尿処理	3.74	3.71	3.35	3.87	3.76	3.90	3.90
(7) ごみ処理	3.51	3.46	3.39	3.63	3.39	3.66	3.55
(8) 防犯や風紀	3.05	2.91	3.11	3.19	2.88	3.08	3.06
(9) 病院などの医療施設	2.98	3.15	2.57	3.23	3.12	2.99	2.84
(10) 集会施設	3.14	3.15	3.02	3.24	2.93	3.12	3.28
(11) 公園・遊び場	3.15	2.90	2.80	3.29	2.82	3.32	3.69
(12) 道路の整備状況	3.14	3.06	2.44	3.24	2.93	3.38	3.73
(13) 緑の豊かさ	3.93	3.35	3.97	4.07	3.82	4.07	4.41
(14) 交通の便	3.21	3.67	2.39	3.39	2.64	3.30	3.41
(15) 交通の安全性	3.03	2.95	2.57	3.17	2.71	3.24	3.42
(16) 全体としての「住みやすさ」	3.45	3.35	3.19	3.59	3.18	3.54	3.77

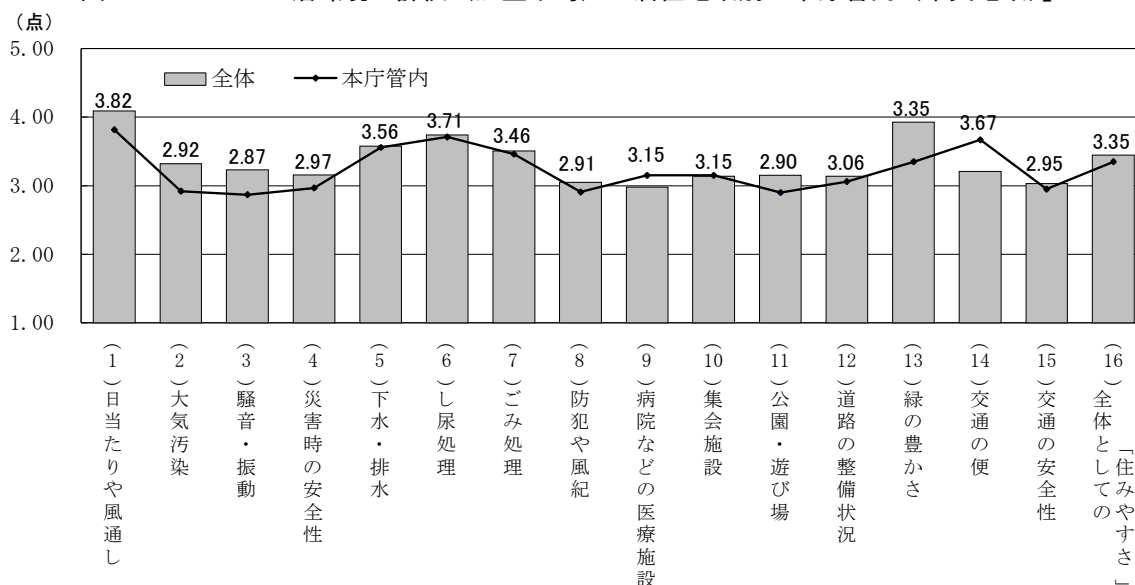
■ は、項目内での最高値をあらわす
■ は、項目内での最低値をあらわす

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(+0.46)となっている。下回っているのは13項目で、加住・石川（北部地域）と並んで多い。最も差が大きいのは「緑の豊かさ」(-0.58)で、他に差が大きいのは「大気汚染」(-0.40)、「騒音・振動」(-0.36)となっている。(図2-1-3)

図2-1-3 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内（中央地域）」

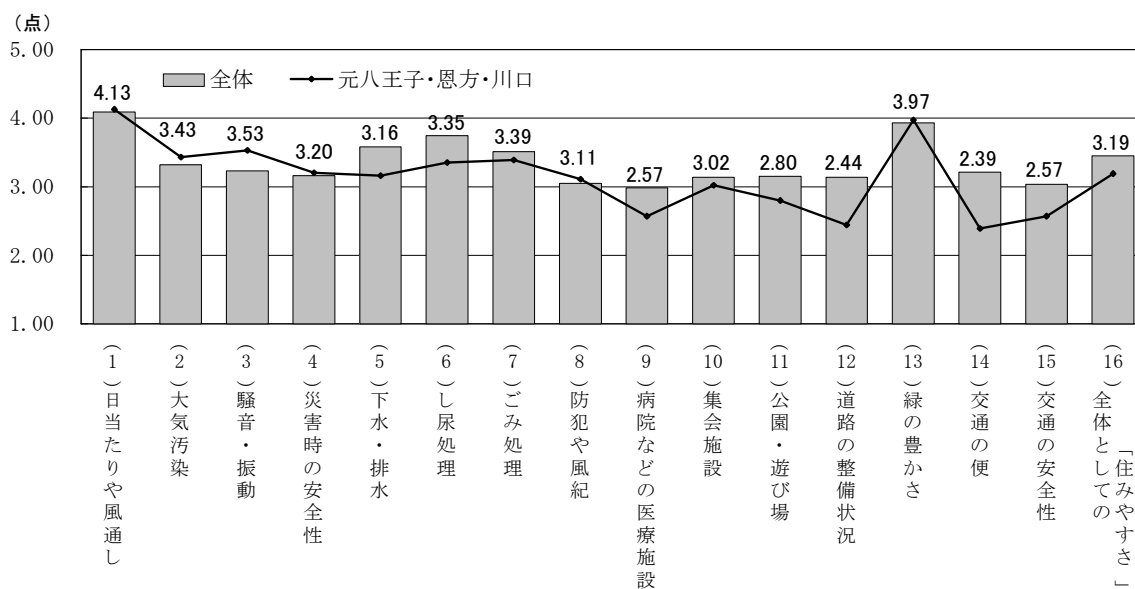


【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中6項目で、最も差が大きいのは「騒音・振動」(+0.30)となっている。下回っているのは10項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(-0.82)で、他に差が大きいのは「道路の整備状況」(-0.70)、「交通の安全性」(-0.46)、「下水・排水」(-0.42)、「病院などの医療施設」(-0.41)、「し尿処理」(-0.39)、「公園・遊び場」(-0.35)となっている。

(図2-1-4)

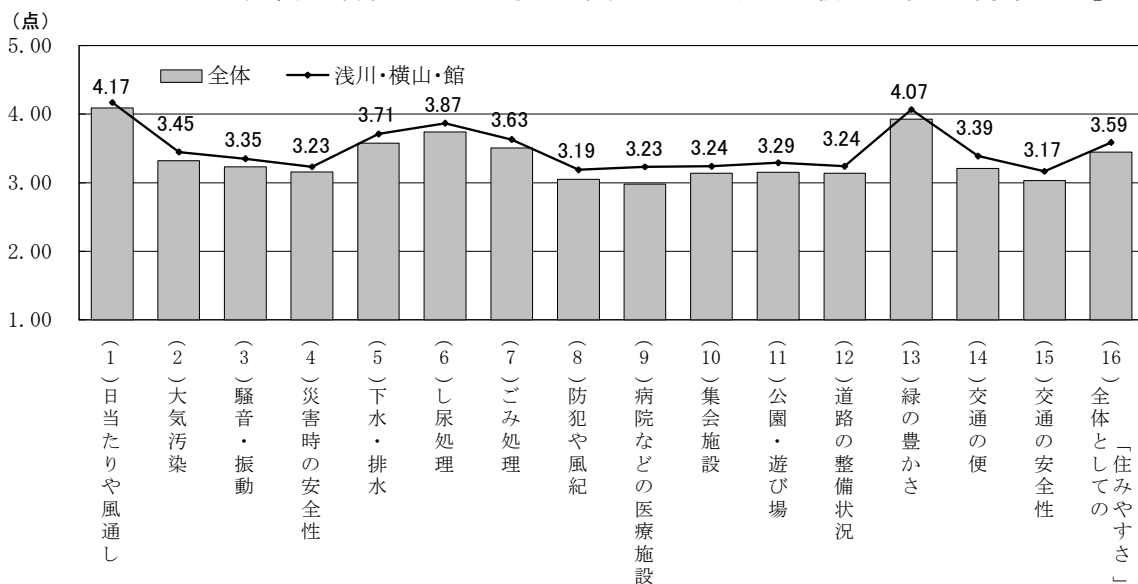
図2-1-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口（西部地域）」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

16項目中すべての項目で市全体より上回っているものの、大きく上回る項目はみられず、市全体と大きな差はない。（図2-1-5）

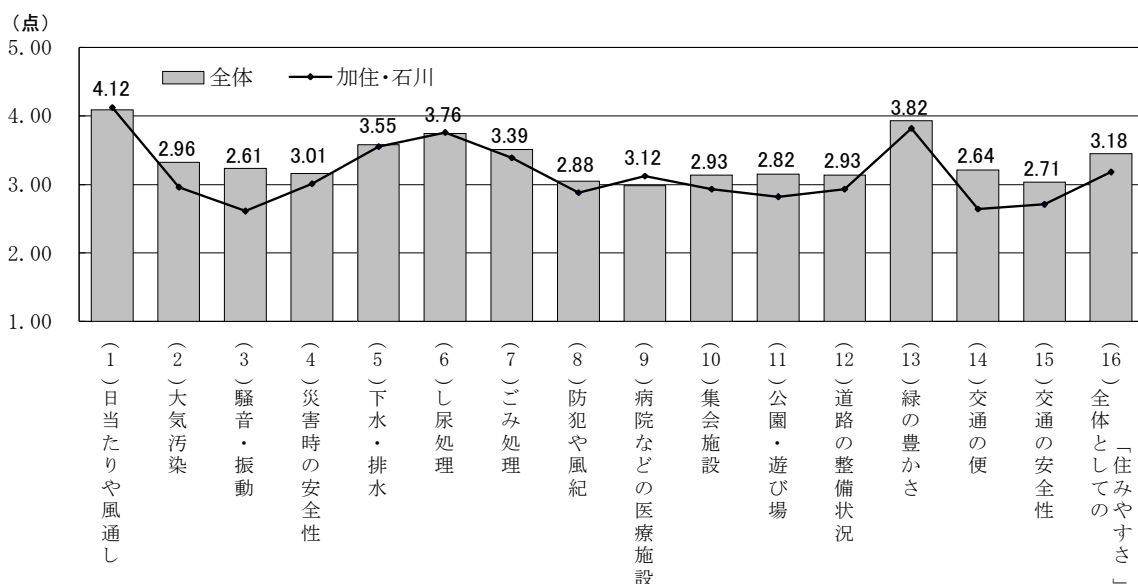
図2-1-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館（西南部地域）」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、差が大きくなっている項目はみられない。下回っているのは13項目で、本庁管内（中央地域）と並んで多い。最も差が大きいのは「騒音・振動」(-0.62)で、他に差が大きいのは「交通の便」(-0.57)、「大気汚染」(-0.36)、「公園・遊び場」(-0.33)、「交通の安全性」(-0.32)となっている。（図2-1-6）

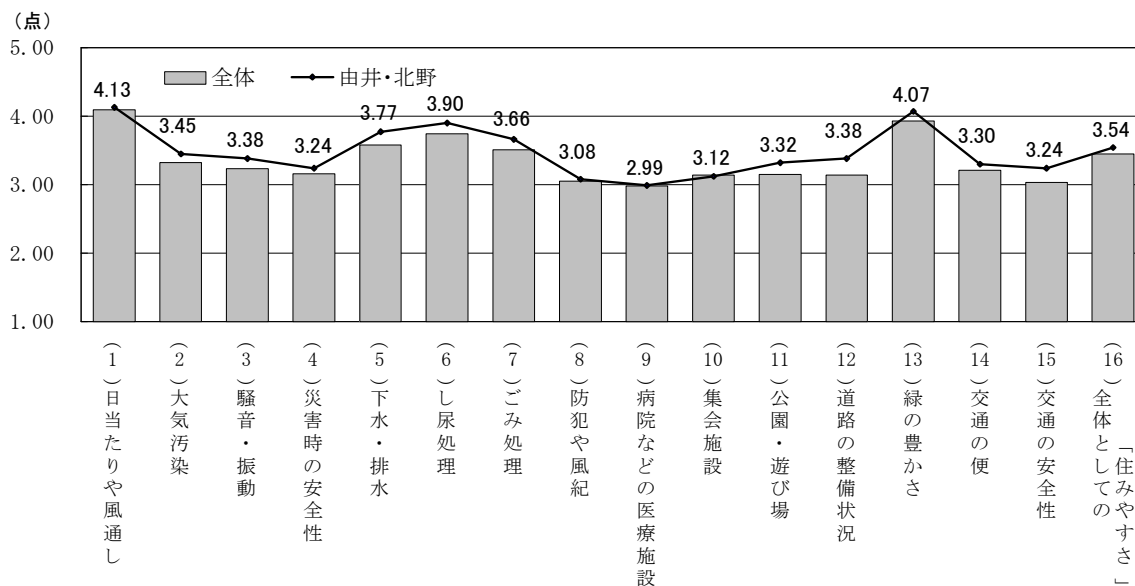
図2-1-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川（北部地域）」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目、下回っているのは1項目で、いずれも差が大きくなっている項目はみられない。(図2-1-7)

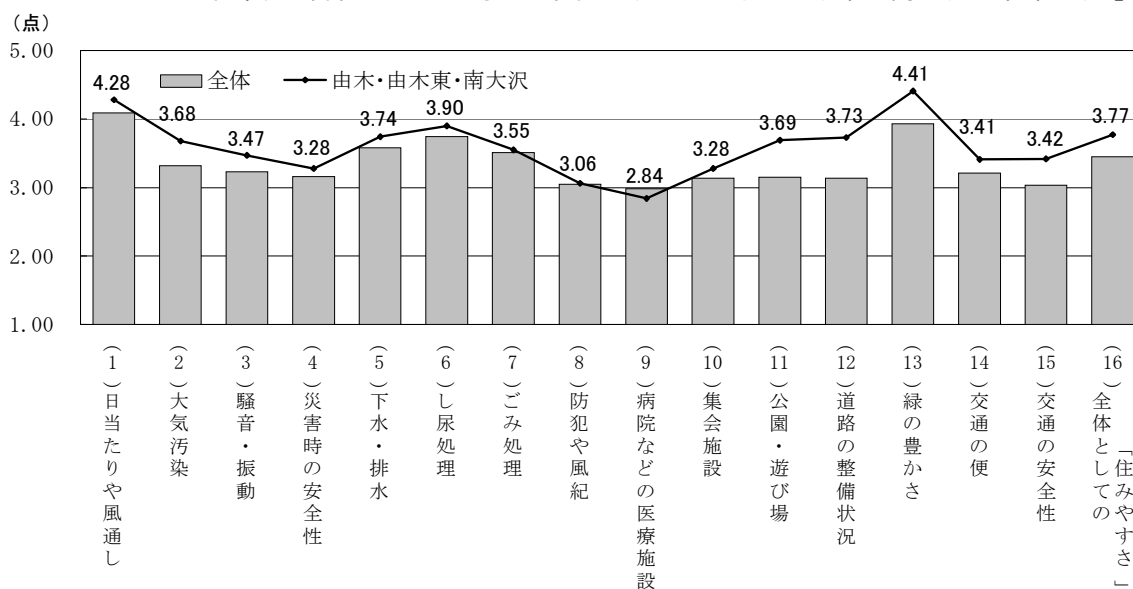
図2-1-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由井・北野（東南部地域）」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは「道路の整備状況」(+0.59)、「公園・遊び場」(+0.54)、「緑の豊かさ」(+0.48)、「交通の安全性」(+0.39)、「大気汚染」(+0.36)、『全体としての「住みやすさ」』(+0.32)となっている。下回っているのは「病院などの医療施設」(-0.15)のみとなっている。(図2-1-8)

図2-1-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」



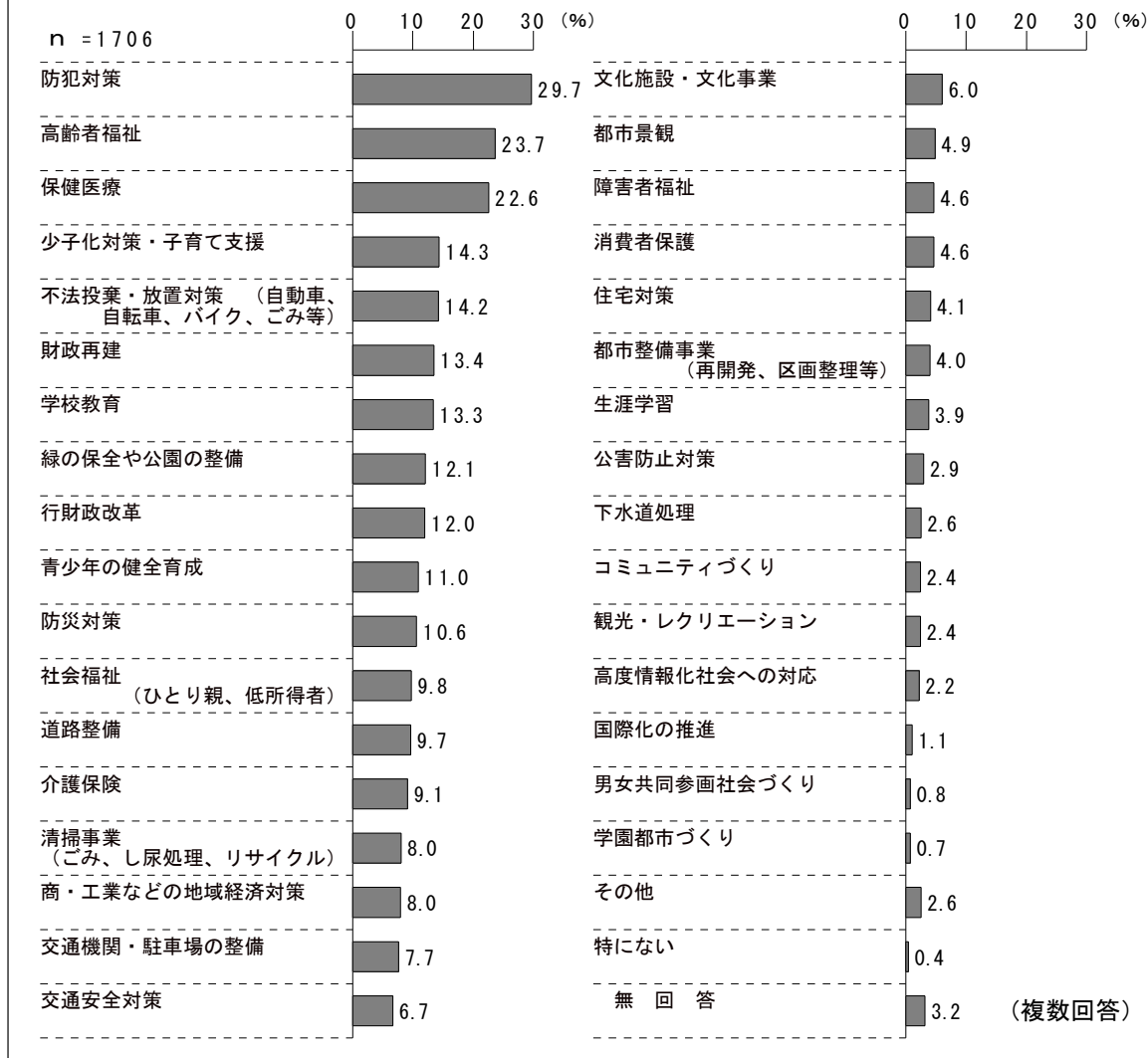
3. 市政への要望

3-1 重点施策要望

◇ 「防犯対策」、「高齢者福祉」、「保健医療」が上位3位

問3 市政全般において、あなたが特に力を入れてほしいと思う施策は何ですか。
次の1～35の中から3つ選び、下の回答欄内に番号をご記入ください。

図3-1-1



市政全般において特に力を入れてほしいと思う施策について聞いたところ、「防犯対策」(29.7%)が3割と最も高く、次いで「高齢者福祉」(23.7%)、「保健医療」(22.6%)、「少子化対策・子育て支援」(14.3%)、「不法投棄・放置対策(自動車、自転車、バイク、ごみ等)」(14.2%)などの順となっている。(図3-1-1)

経年での変化をみると、今回は前回から引き続き上位3位には「防犯対策」、「高齢者福祉」、「保健医療」が入り、同じ結果となっている。第4位には、前回9位だった「少子化対策・子育て支援」、第5位には前回6位だった「不法投棄・放置対策（自動車、自転車、バイク、ごみ等）」が入っている。その結果、前回4位だった「財政再建」が第6位に、前回5位だった「学校教育」が第7位となっている。（表3-1-1）

表3-1-1 重点施策要望一経年比較

(%)

年 順位	平成15年	平成16年	平成17年
第1位	高齢者福祉 (30.6)	防犯対策 (31.1)	防犯対策 (29.7)
第2位	防犯対策 (26.6)	高齢者福祉 (27.2)	高齢者福祉 (23.7)
第3位	保健医療 (22.4)	保健医療 (23.2)	保健医療 (22.6)
第4位	財政再建 (18.5)	財政再建 (16.0)	少子化対策・ 子育て支援 (14.3)
第5位	行財政改革 (16.2)	学校教育 (14.3)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (14.2)
第6位	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (15.1)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (13.7)	財政再建 (13.4)
第7位	学校教育 (11.8)	行財政改革 (12.3)	学校教育 (13.3)
第8位	青少年の健全育成/ 介護保険	道路整備 (11.4)	緑の保全や公園 の整備 (12.1)
第9位		少子化対策・ 子育て支援 (11.3)	行財政改革 (12.0)
第10位	清掃事業 (10.5)	清掃事業 (10.8)	青少年の健全育成 (11.0)

性別にみると、男女ともに第1位は「防犯対策」となっている。第2位と第3位には、性別により「保健医療」と「高齢者福祉」の順序が入れ替わっている。また、「高齢者福祉」は7ポイント、「保健医療」は5ポイント、女性の方が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性では第1位に50歳代以下の年代では「防犯対策」、60～64歳では「防犯対策」と「高齢者福祉」、65歳以上では「高齢者福祉」となっている。女性では、第1位に20歳代では「防犯対策」と「少子化対策・子育て支援」、30歳代では「防犯対策」、40歳代では「学校教育」、50歳以上の年代では「高齢者福祉」となっている。

「防犯対策」は男性ではすべての年代で第3位までに、女性では第4位までに入っている。「高齢者福祉」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性の65歳以上では5割を占めている。(表3-1-2)

表3-1-2 重点施策要望－性・年齢別

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男 性	防犯対策 (31.3)	保健医療 (20.1)	高齢者福祉 (19.9)	財政再建 (15.9)	行財政改革 (15.3)
女 性	防犯対策 (28.5)	高齢者福祉 (26.6)	保健医療 (24.9)	少子化対策・ 子育て支援 (16.5)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (15.6)
男 性 20 歳 代	防犯対策 (30.3)	少子化対策・ 子育て支援 (19.3)	緑の保全や公園 の整備 (17.4)	財政再建 (16.5)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (14.7)
30 歳 代	防犯対策 (38.9)	少子化対策・ 子育て支援 (26.5)	保健医療 (20.4)	学校教育 (18.6)	商・工業などの 地域経済対策 (15.0)
40 歳 代	防犯対策 (42.5)	財政再建 (20.1)	学校教育 (17.9)	行財政改革 (17.2)	高齢者福祉 (16.4)
50 歳 代	防犯対策 (27.8)	高齢者福祉 (21.5)	保健医療 (19.0)	青少年の 健全育成 (17.1)	財政再建 (16.5)
60～64 歳	防犯対策／高齢者福祉 (27.0)		保健医療 (24.0)	行財政改革 (21.0)	財政再建 (19.0)
65 歳 以上	高齢者福祉 (37.0)	保健医療 (30.1)	防犯対策 (22.6)	行財政改革 (15.1)	青少年の 健全育成 (13.0)
女 性 20 歳 代	防犯対策／ 少子化対策・子育て支援 (30.2)		清掃事業 (ごみ、し尿処理、 リサイクル) (19.8)	緑の保全や公園 の整備 (17.2)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (16.4)
30 歳 代	防犯対策 (38.2)	少子化対策・ 子育て支援 (36.0)	保健医療／学校教育 (26.4)		緑の保全や公園 の整備 (18.5)
40 歳 代	学校教育 (36.5)	防犯対策 (30.7)	保健医療 (24.1)	高齢者福祉 (19.0)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (16.8)
50 歳 代	高齢者福祉 (30.2)	防犯対策 (25.1)	保健医療 (24.1)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (19.6)	財政再建 (14.1)
60～64 歳	高齢者福祉 (40.1)	保健医療 (30.6)	防犯対策 (23.1)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (18.4)	青少年の 健全育成／ 介護保険 (13.6)
65 歳 以上	高齢者福祉 (50.0)	保健医療 (28.0)	介護保険 (25.3)	防犯対策 (23.3)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (14.0)

居住地域別にみると、元八王子・恩方・川口（西部地域）は「保健医療」が第1位で、その他の地域では「防犯対策」が第1位となっており、「由井・北野（東南部地域）」ではほぼ4割と高くなっている。また、すべての居住地域で「保健医療」、「高齢者福祉」が第3位までに、「防犯対策」が第4位までに入っている。元八王子・恩方・川口（西部地域）では「道路整備」が第3位、加住・石川（北部地域）では「学校教育」が第2位に入っているのが目立つ。（表3-1-3）

表3-1-3 重点施策要望－居住地域別

(96)

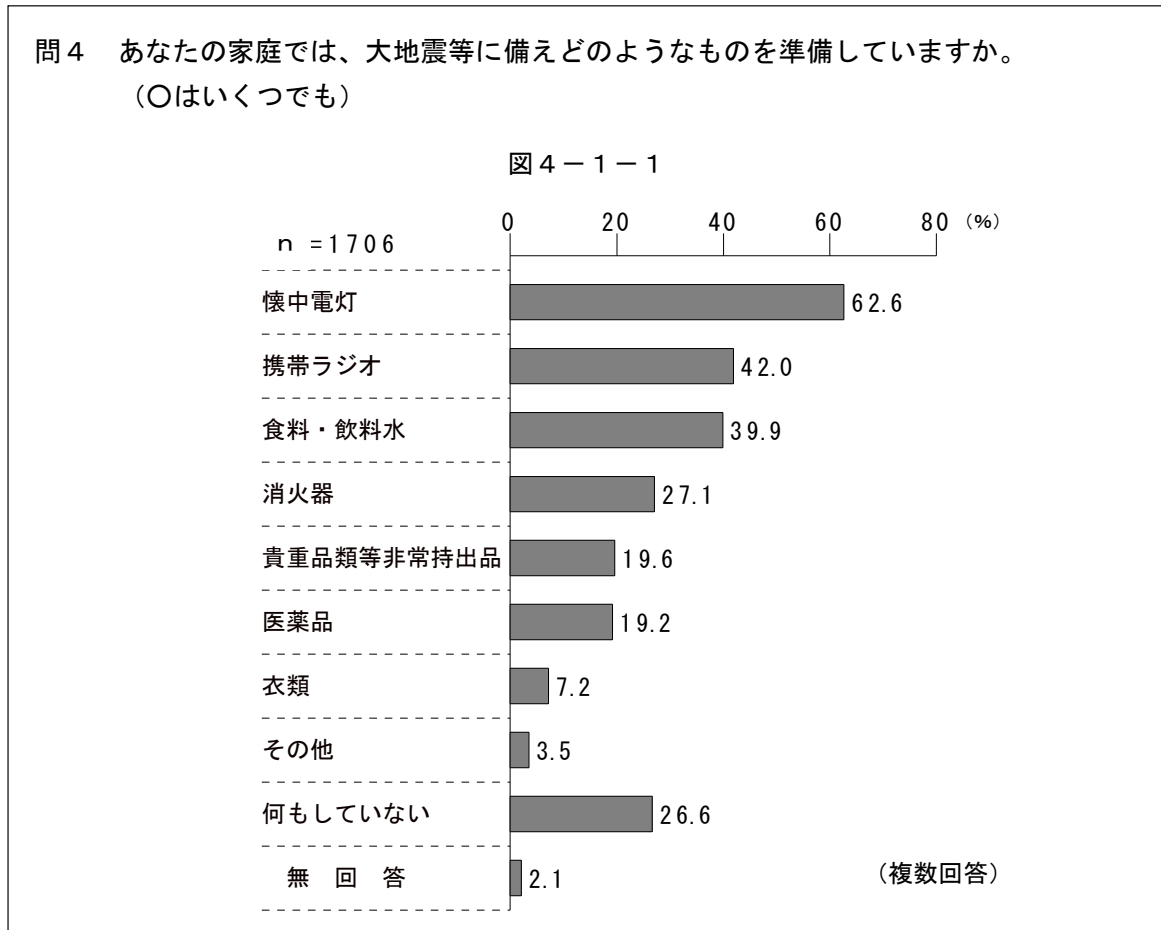
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
本庁管内 （中央地域）	防犯対策 (28.8)	保健医療 (23.5)	高齢者福祉 (20.2)	不法投棄・放置対策 （自動車、自転車、 バイク、ごみ等） (16.4)	財政再建 (13.9)
元八王子・恩方・川口 （西部地域）	保健医療 (24.7)	高齢者福祉 (24.3)	道路整備 (23.7)	防犯対策 (19.3)	交通機関・ 駐車場の整備 (15.0)
浅川・横山・館 （西南部地域）	防犯対策 (28.3)	保健医療 (25.0)	高齢者福祉 (24.7)	財政再建／学校教育 (18.1)	
加住・石川 （北部地域）	防犯対策 (30.7)	学校教育 (19.3)	保健医療／高齢者福祉 (16.4)		防災対策 (15.0)
由井・北野 （東南部地域）	防犯対策 (40.6)	高齢者福祉 (27.1)	保健医療 (25.8)	少子化対策・ 子育て支援 (17.0)	行財政改革 (15.7)
由木・由木東・南大沢 （東部地域）	防犯対策 (33.8)	高齢者福祉 (27.5)	保健医療 (17.2)	少子化対策・子育て支援／ 不法投棄・放置対策 （自動車、自転車、バイク、ごみ等）／ 学校教育 (14.6)	

4. 防災対策について

4-1 大地震に備えた準備状況

◇「懐中電灯」が6割を超える

問4 あなたの家庭では、大地震等に備えどのようなものを準備していますか。
(〇はいくつでも)



家庭での大地震等に備えた準備状況について聞いたところ、「懐中電灯」(62.6%)が6割を超え最も高く、次いで「携帯ラジオ」(42.0%)、「食料・飲料水」(39.9%)、「消火器」(27.1%)、「貴重品類等非常持出品」(19.6%)、「医薬品」(19.2%)、「衣類」(7.2%)となっている。また、「何もしていない」(26.6%)が2割半ばと比較的高くなっている。(図4-1-1)

上位5項目を性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「懐中電灯」、「携帯ラジオ」、「貴重品類等非常持出品」はそれぞれ高い年代ほど割合が高い傾向にあり、「懐中電灯」は60歳以上の年代で7割、「携帯ラジオ」は、60歳以上の年代で5割を超え、「貴重品類等非常持出品」は65歳以上で3割を超え高くなっている。

(図4-1-2)

上位5項目を住居形態別にみると、一戸建て(持ち家)、分譲マンション、一戸建て(借家)では、「懐中電灯」で6割以上、「携帯ラジオ」で4割から5割、「消火器」で3割以上と、他の住居形態に比べて高くなっている。また、民間の賃貸アパート・マンションと社宅・官舎・寮では、上位5項目は他の住居形態より低くなっている。(図4-1-3)

図4-1-2 大地震に備えた準備状況—性別・年齢別(上位5項目)

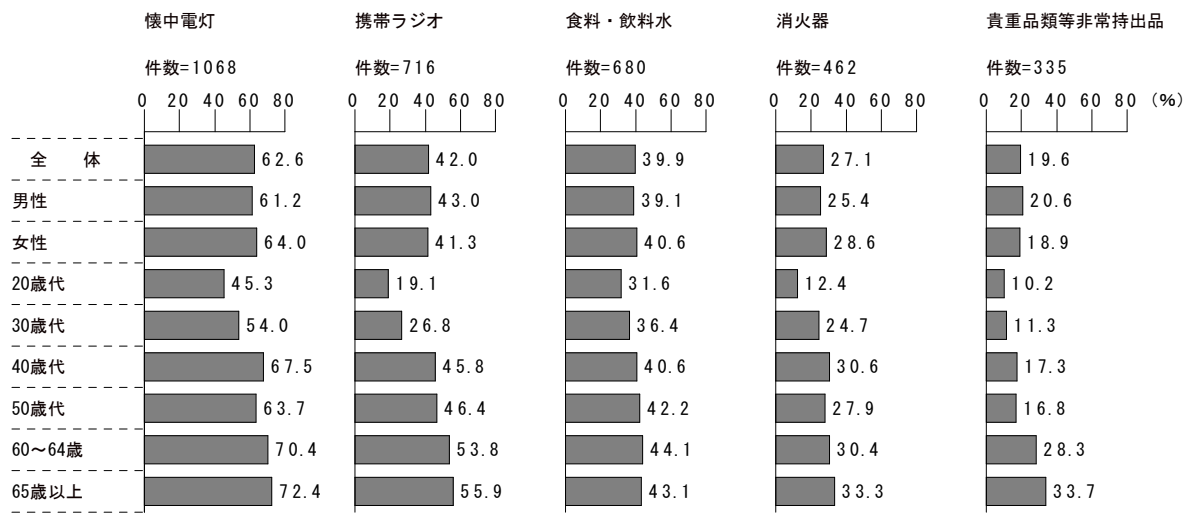
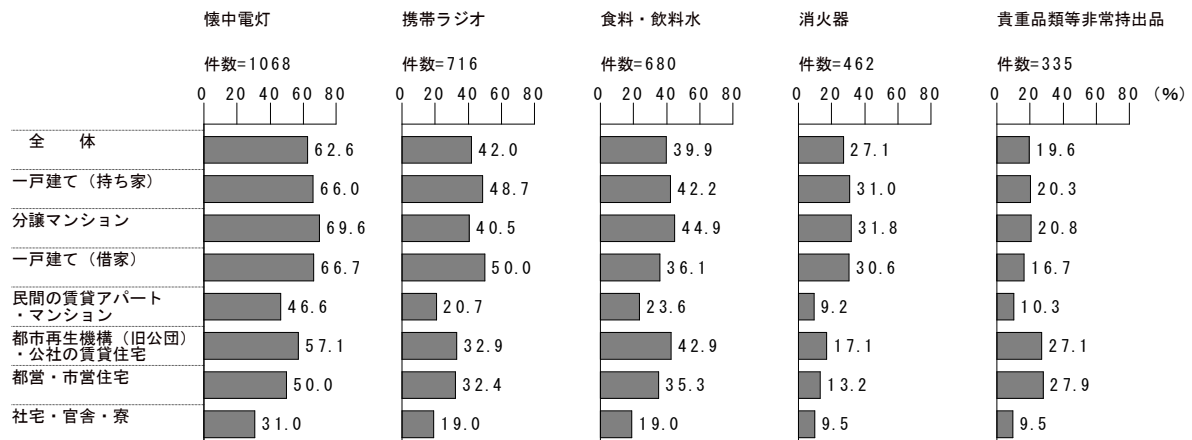


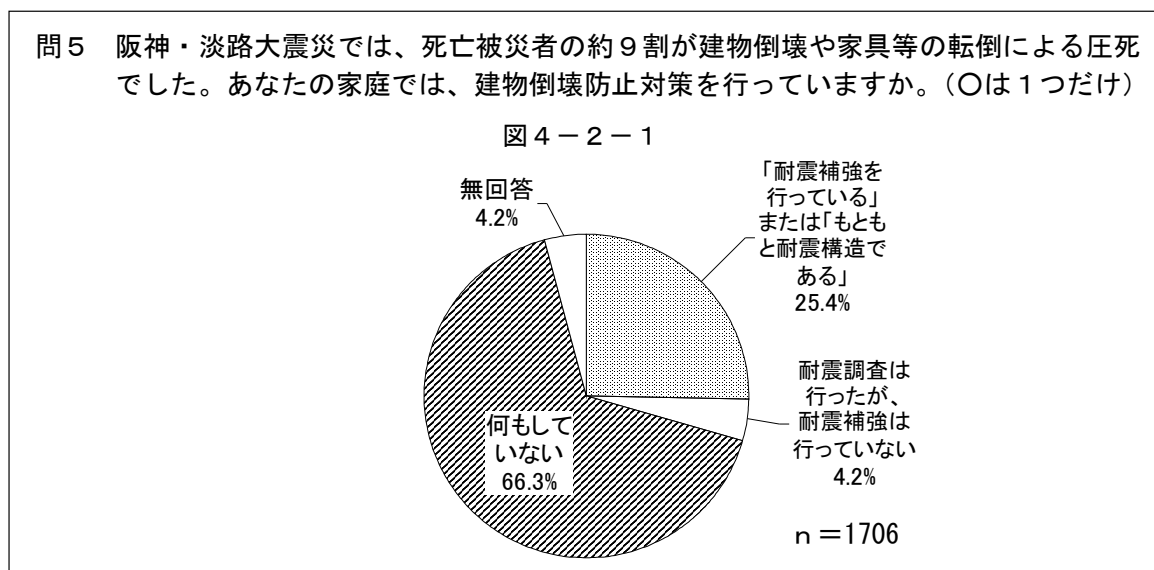
図4-1-3 大地震に備えた準備状況—住居形態別(上位5項目)



4-2 建物倒壊防止対策の実施状況

◇「何もしていない」が6割半ば、『「耐震補強を行っている」または「もともと耐震構造である」』が2割半ばを占める

問5 阪神・淡路大震災では、死亡被災者の約9割が建物倒壊や家具等の転倒による圧死でした。あなたの家庭では、建物倒壊防止対策を行っていますか。(○は1つだけ)

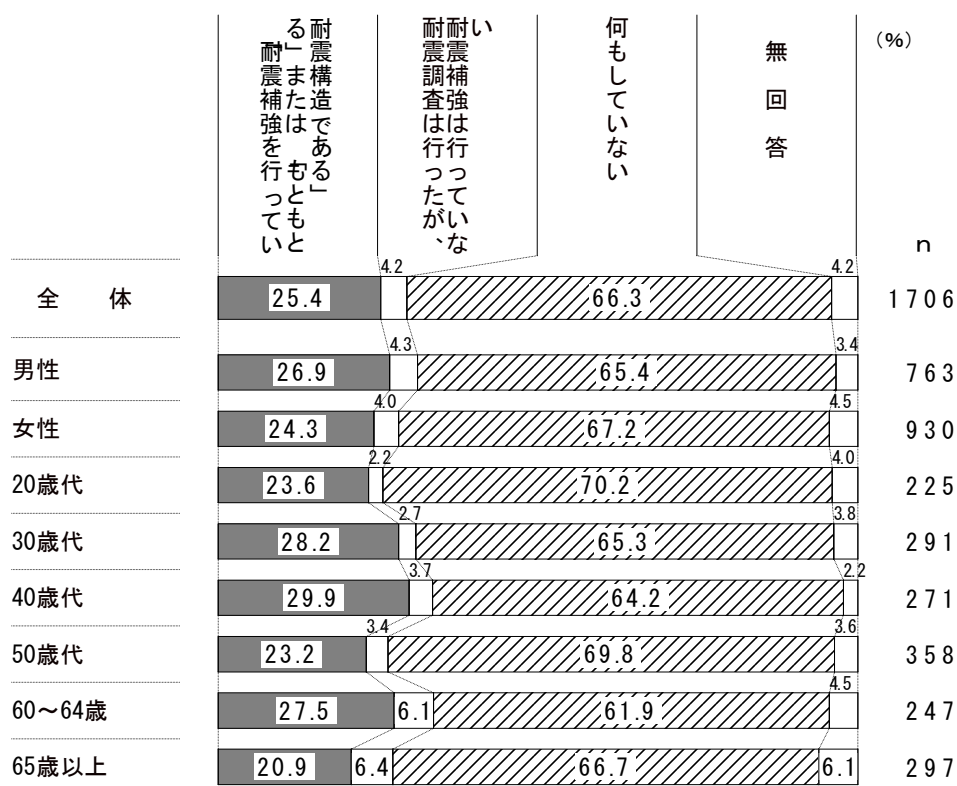


家庭での建物倒壊防止対策の実施状況について聞いたところ、『「耐震補強を行っている」または「もともと耐震構造である」』(25.4%)が2割半ば、「耐震調査は行ったが、耐震補強は行っていない」は1割未満となっている。また、「何もしていない」(66.3%)が6割半ばを占め高くなっている。(図4-2-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

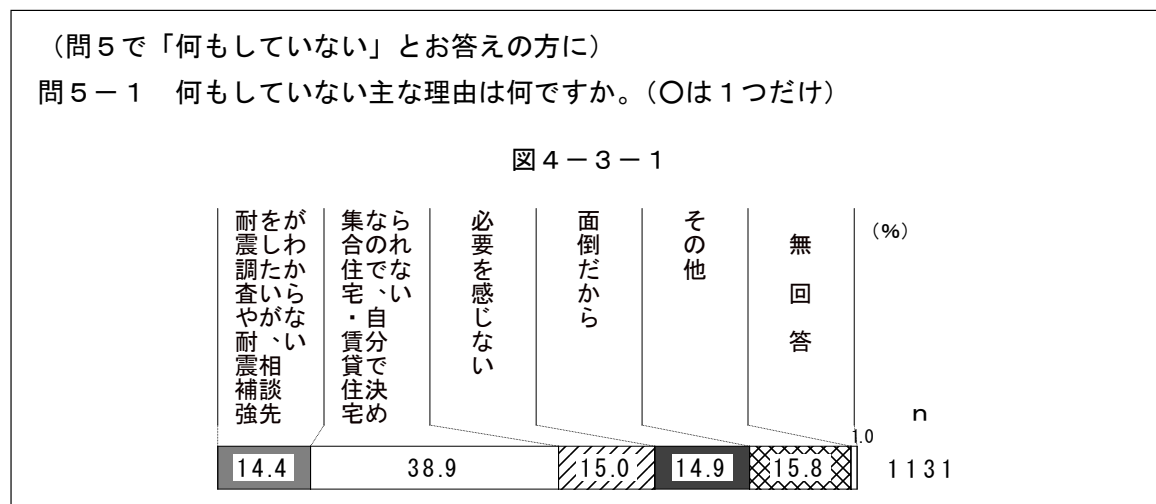
年齢別にみても、ほぼ同じ傾向になっている。(図4-2-2)

図4-2-2 建物倒壊防止対策の実施状況—性別・年齢別



4-3 建物倒壊防止策を実施しない理由

◇「集合住宅・賃貸住宅なので、自分で決められない」が4割近く

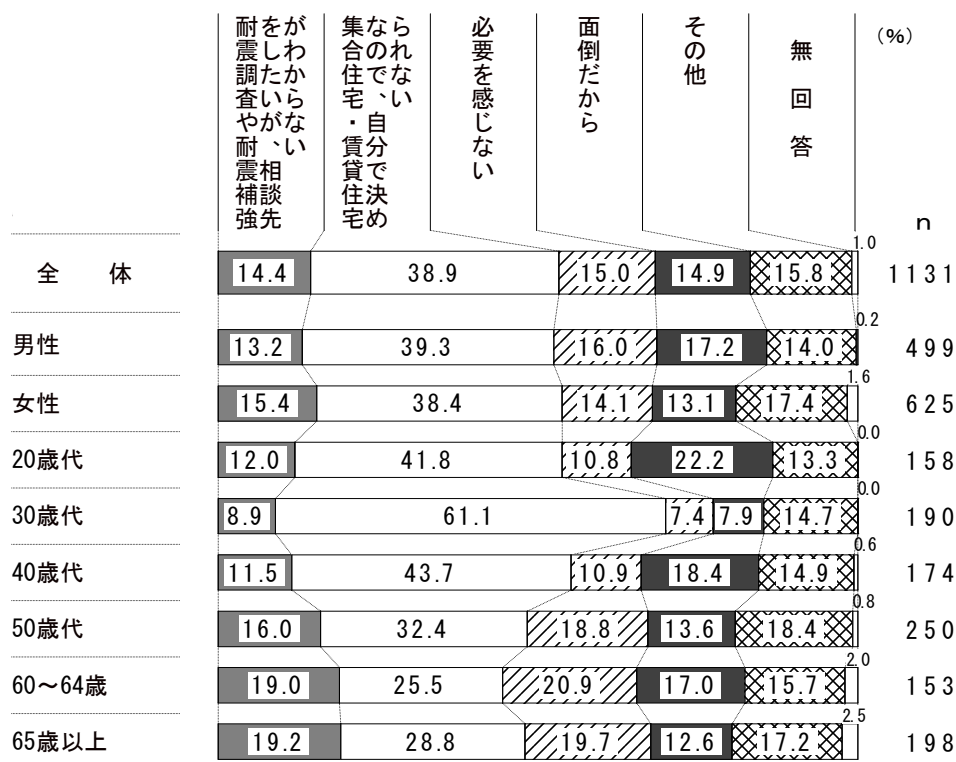


建物倒壊防止対策の実施状況で「何もしていない」と答えた人(1,131人)に、何もしていない理由について聞いたところ、「集合住宅・賃貸住宅なので、自分で決められない」(38.9%)が4割近くで最も高く、次いで「必要を感じない」(15.0%)、「面倒だから」(14.9%)、「耐震調査や耐震補強をしたいが、相談先がわからない」(14.4%)がそれぞれ1割半ばとなっている。(図4-3-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「集合住宅・賃貸住宅なので、自分で決められない」が30歳代で6割を超え、飛び抜けて高くなっている。(図4-3-2)

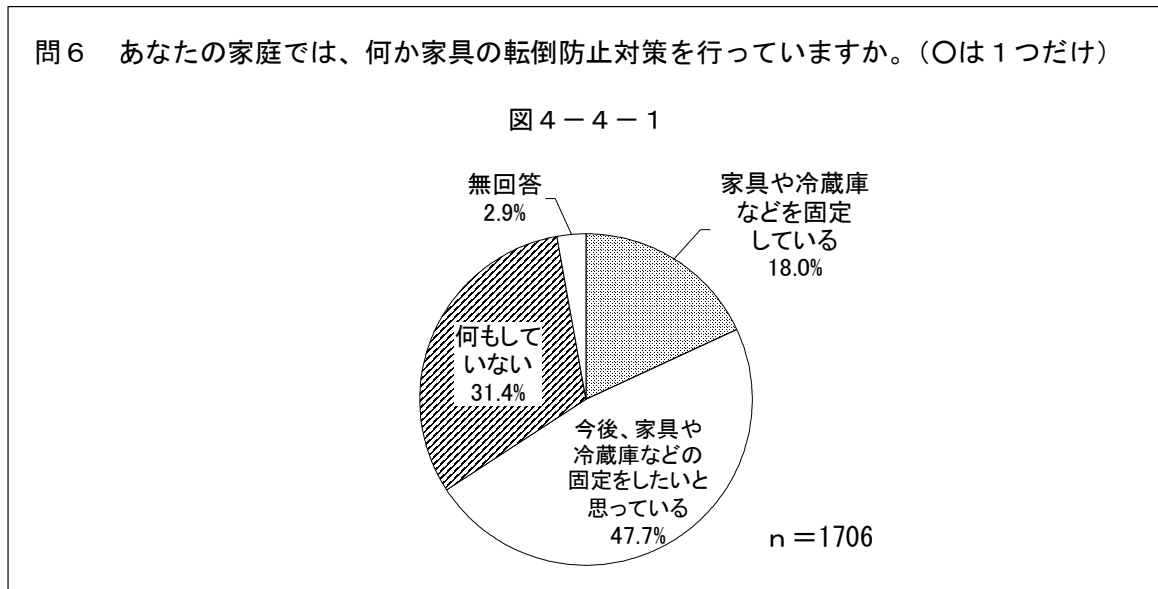
図4-3-2 建物倒壊防止策を実施しない理由-性別・年齢別



4-4 家具の転倒防止対策の実施状況

◇「今後、家具や冷蔵庫などの固定をしたいと思っている」が5割近く

問6 あなたの家庭では、何か家具の転倒防止対策を行っていますか。(○は1つだけ)



家庭での家具の転倒防止対策の実施状況について聞いたところ、「今後、家具や冷蔵庫などの固定をしたいと思っている」(47.7%)が5割近く、「家具や冷蔵庫などを固定している」(18.0%)が2割近くとなっている。また、「何もしていない」(31.4%)が3割を超える。(図4-4-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「今後、家具や冷蔵庫などの固定をしたいと思っている」は60歳以上の年代で5割を超え、「何もしていない」は20歳代と50歳代で4割近くと比較的高くなっている。

(図4-4-2)

住居形態別にみると、「何もしていない」は民間の賃貸アパート・マンションと社宅・官舎・寮で4割を超え高くなっている。(図4-4-3)

図4-4-2 家具の転倒防止対策の実施状況—性別・年齢別

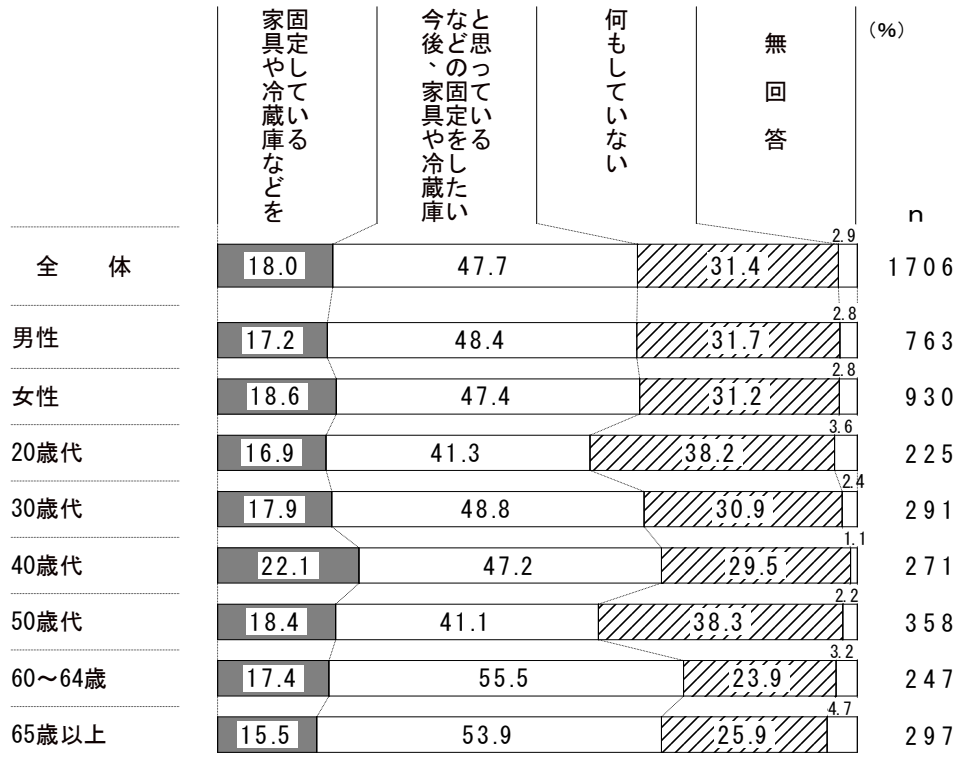
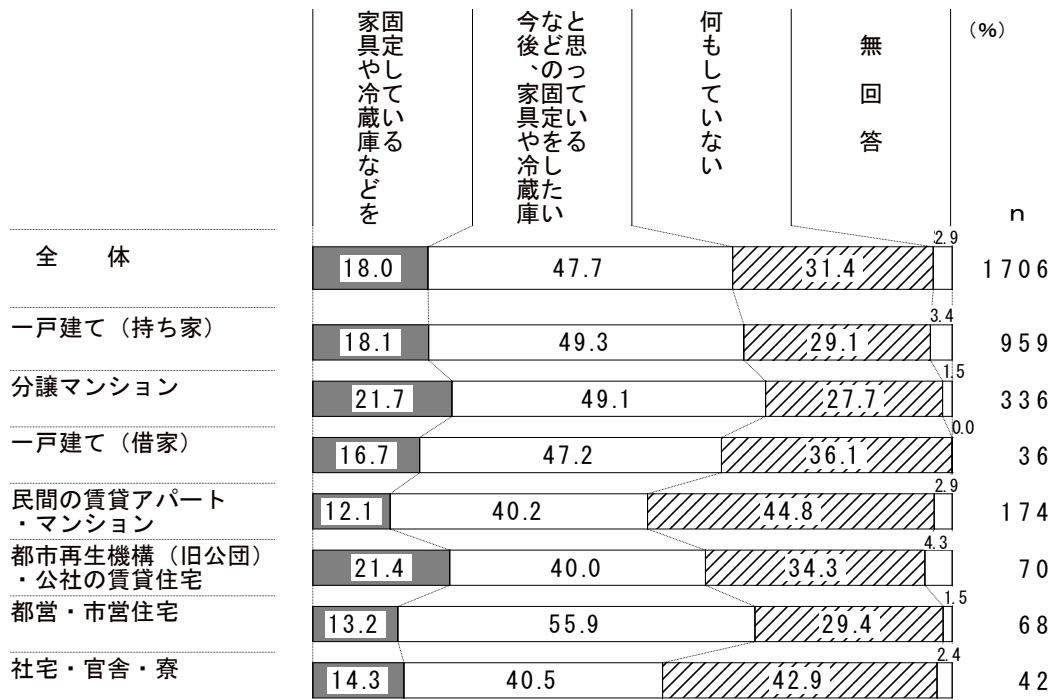


図4-4-3 家具の転倒防止対策の実施状況—住居形態別



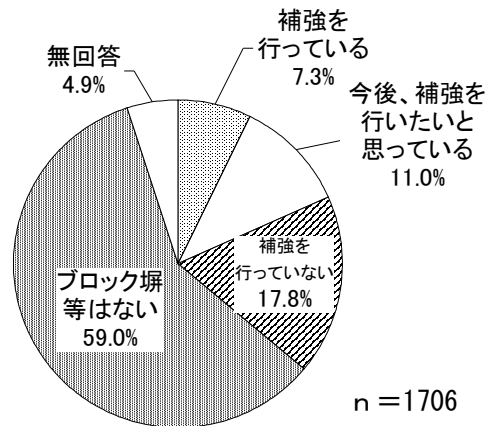
4-5 ブロック塀等の補強対策の実施状況

◇「補強を行っていない」が2割近く、「ブロック塀等はない」がほぼ6割

問7 家の外まわりの安全対策として、ブロック塀等の補強対策を行っていますか。

(○は1つだけ)

図4-5-1

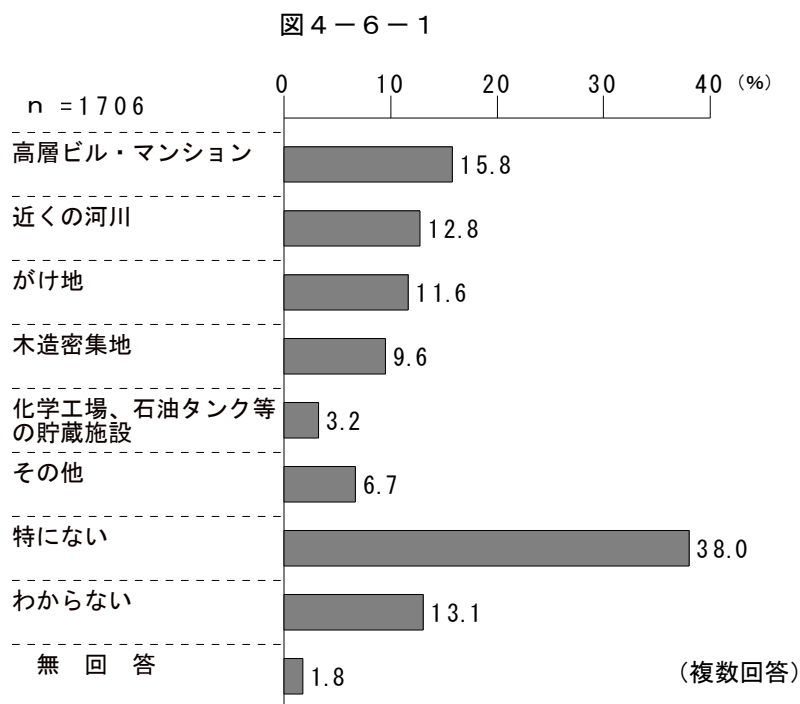


安全対策としてブロック塀等の補強対策の実施状況について聞いたところ、「補強を行っていない」(17.8%)が2割近く、「今後、補強を行いたいと思っている」(11.0%)が1割を超え、「補強を行っている」(7.3%)が1割未満となっている。なお、「ブロック塀等はない」(59.0%)がほぼ6割となっている。(図4-5-1)

4-6 災害発生時に危険だと思う場所

◇「高層ビル・マンション」が1割半ば、「特にない」が4割近く

問8 あなたの自宅周辺では、災害発生時に危険だと思う場所がありますか。
(○はいくつでも)



自宅周辺の災害発生時に危険だと思う場所について聞いたところ、「高層ビル・マンション」(15.8%)が1割半ば、「近くの河川」(12.8%)と「がけ地」(11.6%)が1割を超え、「木造密集地」(9.6%)と「化学工場、石油タンク等の貯蔵施設」(3.2%)が1割未満となっている。また、「特にない」(38.0%)は4割近くである。(図4-6-1)

上位5項目を性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「高層ビル・マンション」は40歳代で2割半ばと高くなっている。(図4-6-2)

上位5項目を居住地域別にみると、「高層ビル・マンション」は本庁管内(中央地域)と由木・由木東・南大沢(東部地域)で2割を超え高くなっている。(図4-6-3)

図4-6-2 災害発生時に危険だと思う場所—性別・年齢別(上位5項目)

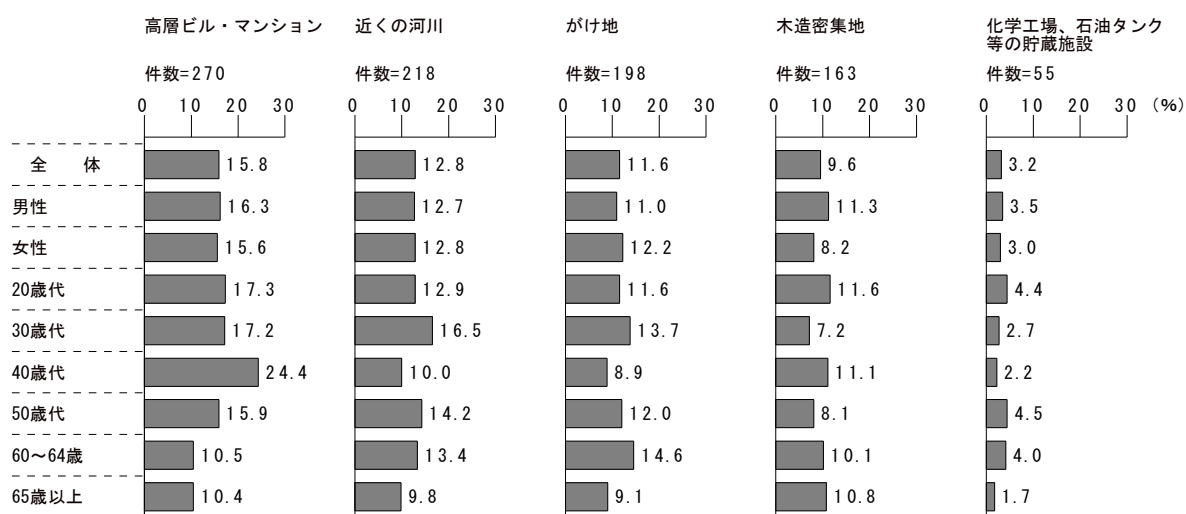
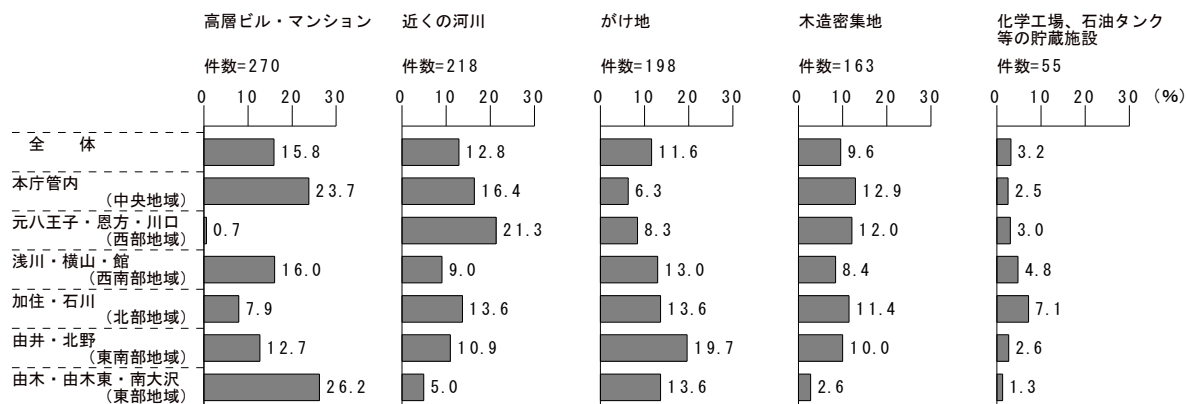


図4-6-3 災害発生時に危険だと思う場所—居住地域別(上位5項目)

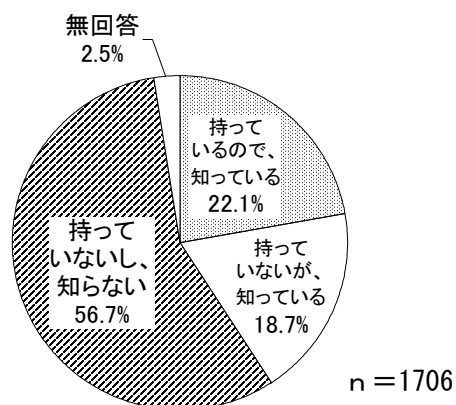


4-7 防災マップの普及状況

◇『知っている』がほぼ4割

問9 あなたは、市で作成した防災マップをご存知ですか。(○は1つだけ)

図4-7-1



市の防災マップを知っているかどうか聞いたところ、「持っているので、知っている」(22.1%)が2割を超え、「持っていないが、知っている」(18.7%)を合わせた『知っている』(40.8%)がほぼ4割となっている。また、「持っていないし、知らない」(56.7%)が6割近くとなっている。

(図4-7-1)

性別にみると、「持っているので、知っている」は女性の方が6ポイント高く、「持っていないが、知っている」を合わせた『知っている』でも4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「持っているので、知っている」は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、『知っている』でも同じ傾向となっている。また、20歳代では「持っていないし、知らない」が8割近くとなっている。(図4-7-2)

居住地域別にみると、『知っている』は浅川・横山・館(西南部地域)で4割半ばと高くなっている。

(図4-7-3)

図4-7-2 防災マップの普及状況－性別・年齢別

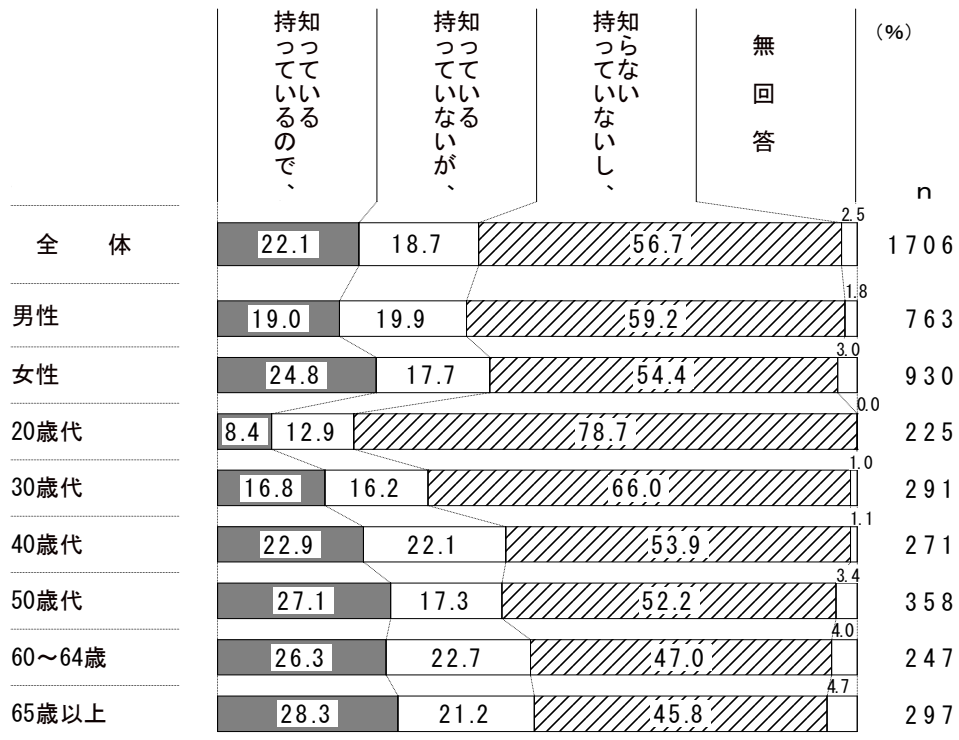
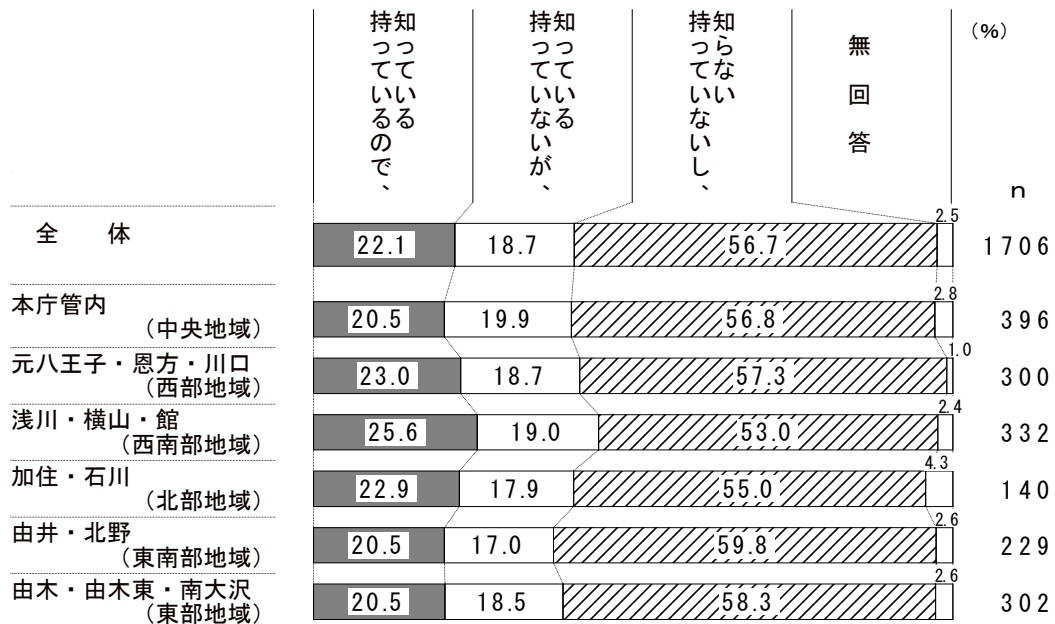


図4-7-3 防災マップの普及状況－居住地域別



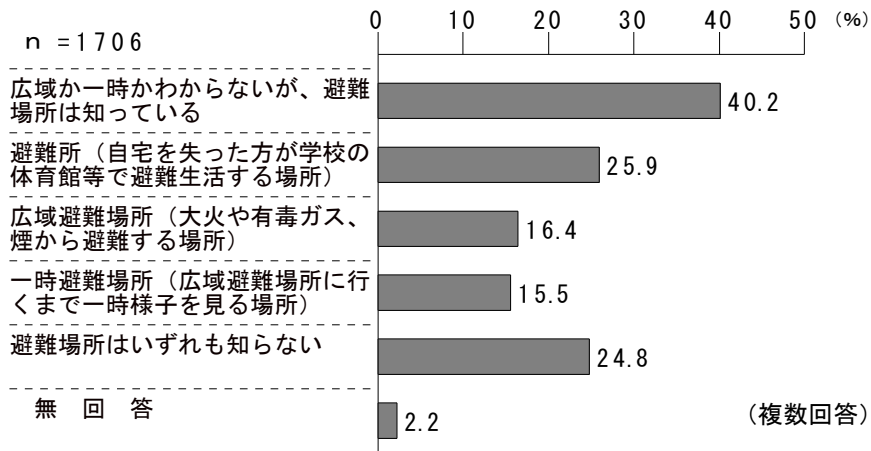
4-8 避難場所の認知状況

◇ 「広域か一時かわからないが、避難場所は知っている」が4割

問10 あなたは、お住まいの地域の避難場所がどこにあるかを知っていますか。

(〇はいくつでも)

図4-8-1



住まいの地域の避難場所を知っているかどうか聞いたところ、「広域か一時かわからないが、避難場所は知っている」(40.2%)が4割と最も高く、次いで「避難所（自宅が焼失、倒壊し住まいがない方に学校の体育館等で避難生活する場所）」(25.9%)、「広域避難場所（大火や有毒ガス、煙から避難する場所）」(16.4%)、「一時避難場所（広域避難場所に行くまで一時様子を見る場所）」(15.5%)の順となっている。また、「避難場所はいずれも知らない」(24.8%)が2割半ばとなっている。

(図4-8-1)

性別にみると、「避難所（自宅が焼失、倒壊し住まいがない方に学校の体育館等で避難生活する場所）」は女性の方が6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「一時避難場所（広域避難場所に行くまで一時様子を見る場所）」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。（図4-8-2）

居住地域別にみると、地域による大きな差はみられない。（図4-8-3）

図4-8-2 避難場所の認知状況—性別・年齢別

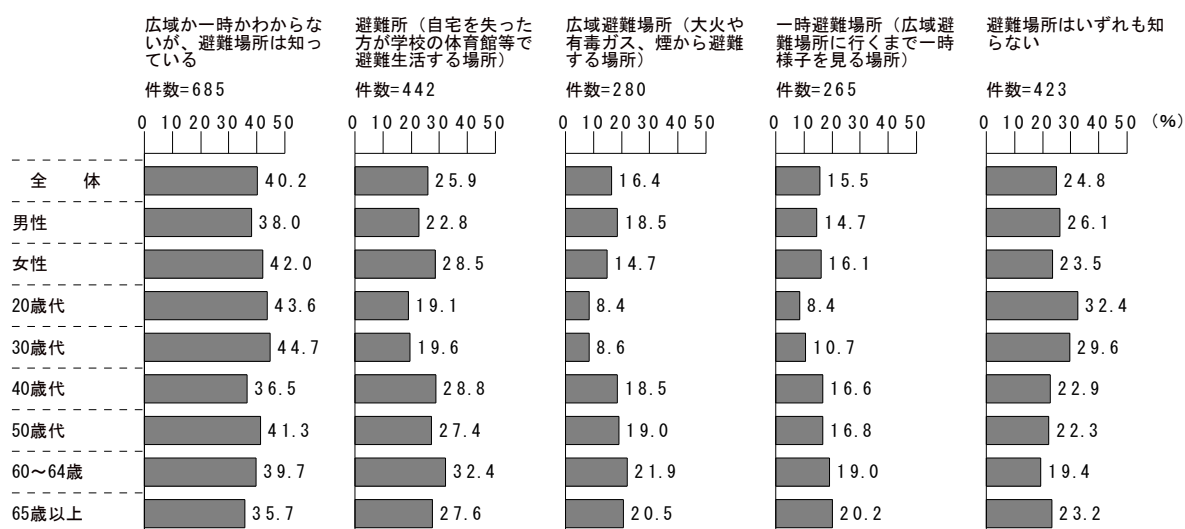
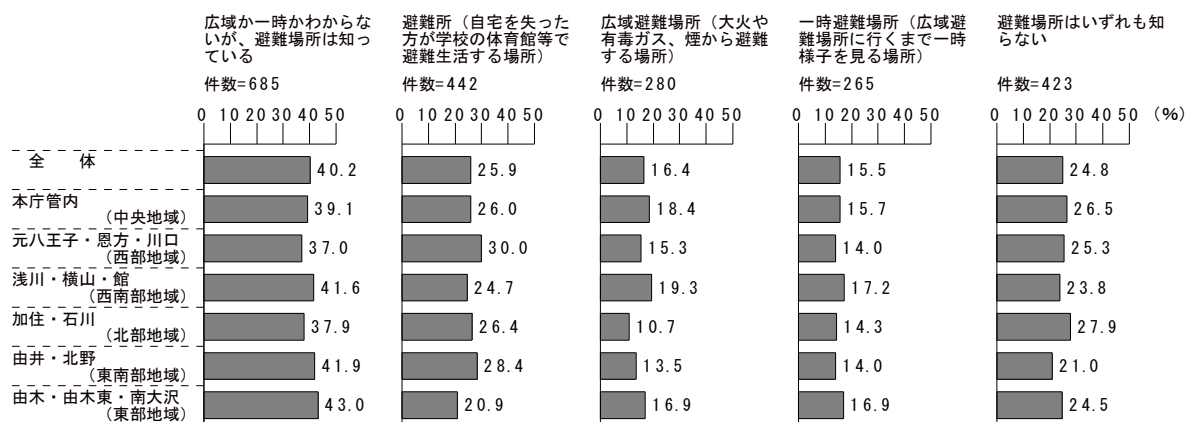


図4-8-3 避難場所の認知状況—居住地域別

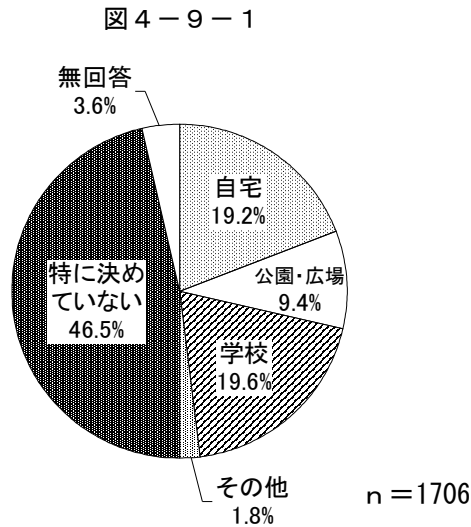


4-9 大地震の時の集合場所

◇ 「学校」と「自宅」がほぼ2割、「特に決めていない」が半数近く

問11 大地震の時、家族で決めている集合場所や連絡方法は次のどれですか。

(1) 集合場所 (○は1つだけ)



大地震の時に家族で決めている集合場所について聞いたところ、「学校」(19.6%)が2割、「自宅」(19.2%)がほぼ2割、「公園・広場」(9.4%)が1割未満となっている。また、「特に決めていない」(46.5%)が5割近くとなっている。(図4-9-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「自宅」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。「学校」は40歳代でほぼ3割と高く、「特に決めていない」は20歳代で6割を超え高くなっている。(図4-9-2)

居住地域別にみると、「学校」は由木・由木東・南大沢(東部地域)で3割近くと高くなっている。また、加住・石川(北部地域)では「自宅」が2割半ばと高く、「学校」が1割を超えるにとどまっている。(図4-9-3)

図4-9-2 大地震の時の集合場所—性別・年齢別

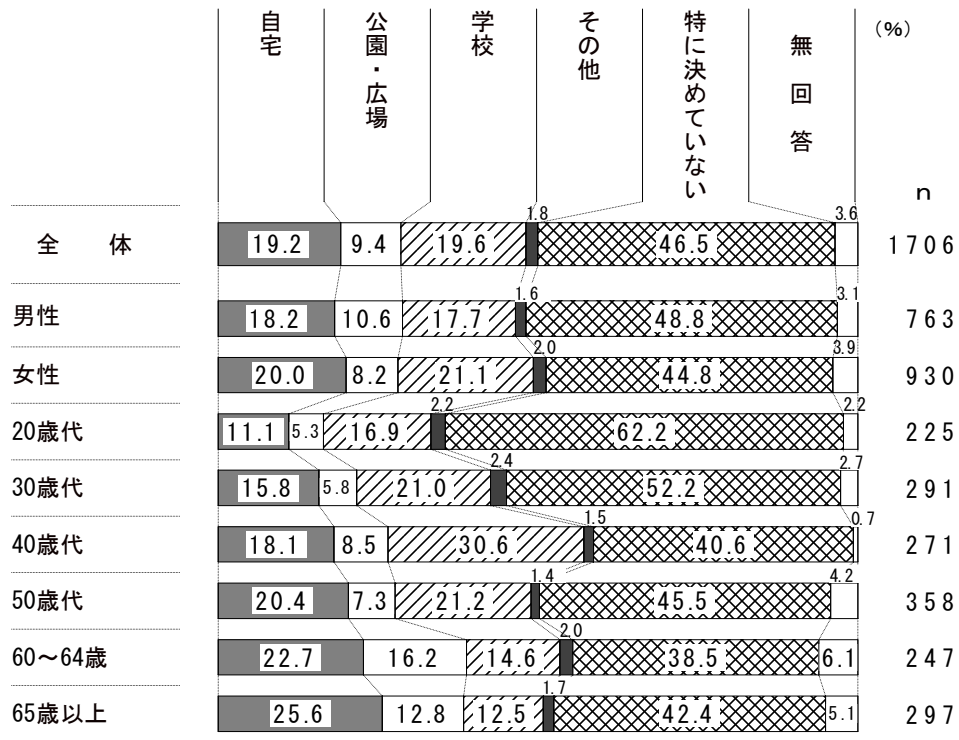
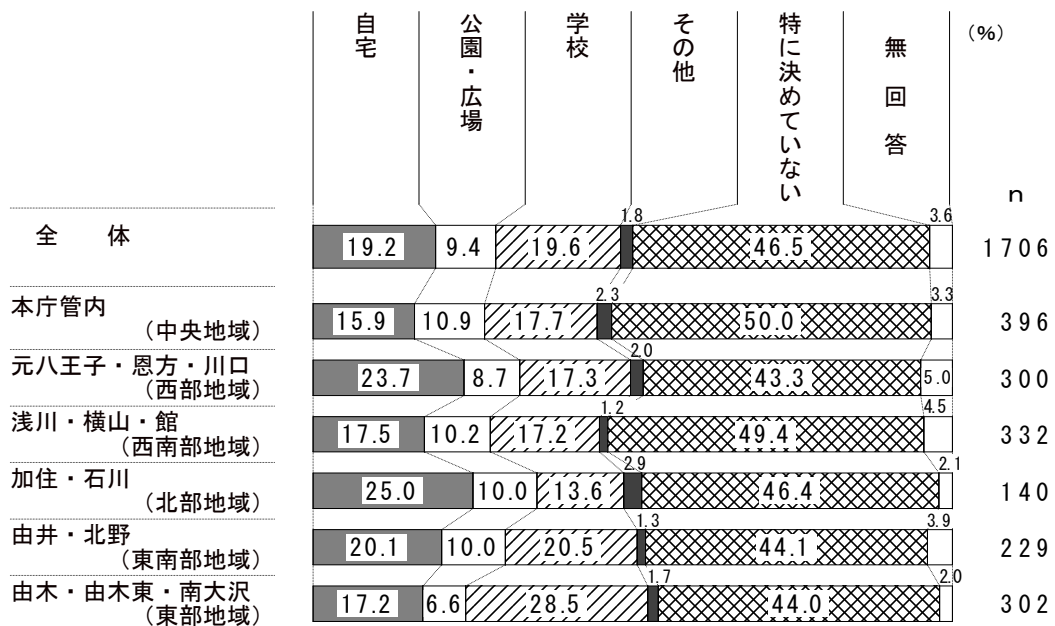


図4-9-3 大地震の時の集合場所—居住地域別



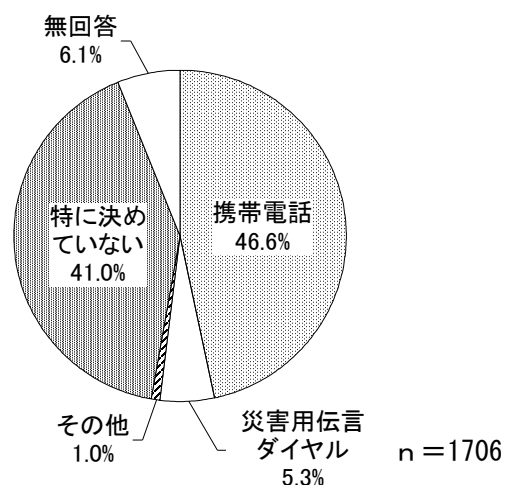
4-10 大地震の時の連絡方法

◇「携帯電話」が5割近く、「特に決めていない」が4割を超える

問11 大地震の時、家族で決めている集合場所や連絡方法は次のどれですか。

(2) 連絡方法 (○は主なもの1つだけ)

図4-10-1



大地震の時に家族で決めている連絡方法について聞いたところ、「携帯電話」(46.6%)が5割近く、「災害用伝言ダイヤル」(5.3%)が1割未満となっている。また、「特に決めていない」(41.0%)が4割を超えている。(図4-10-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「携帯電話」は40歳代と50歳代で5割以上を占めている。(図4-10-2)

居住地域別にみると、「携帯電話」は全地域で5割前後となっている。(図4-10-3)

図4-10-2 大地震の時の連絡方法—性別・年齢別

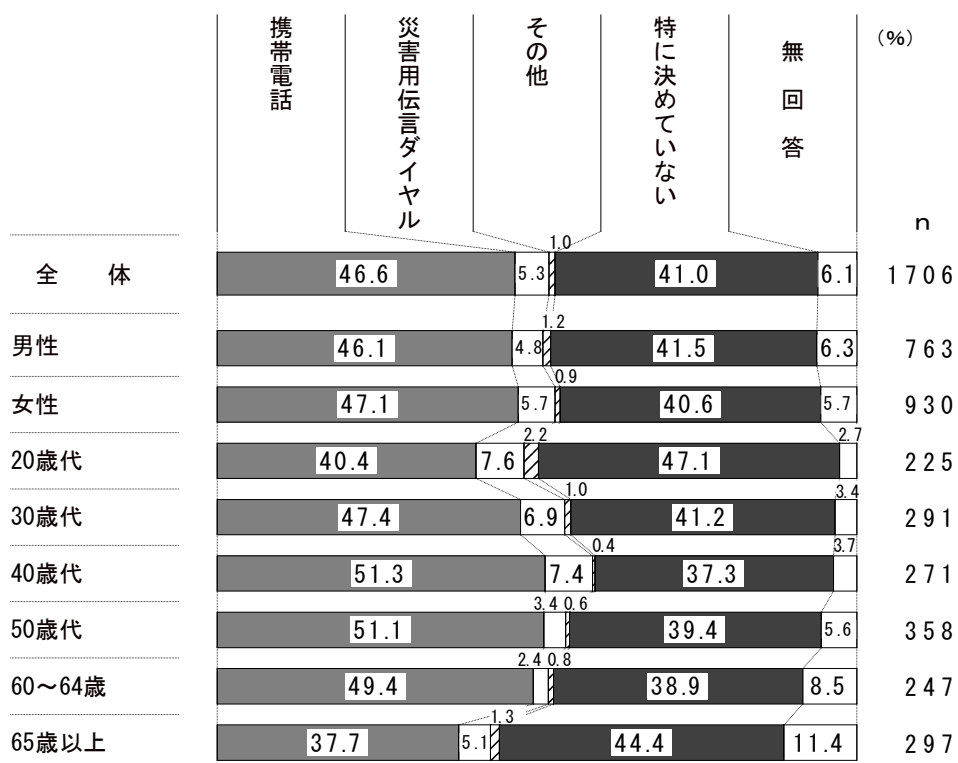
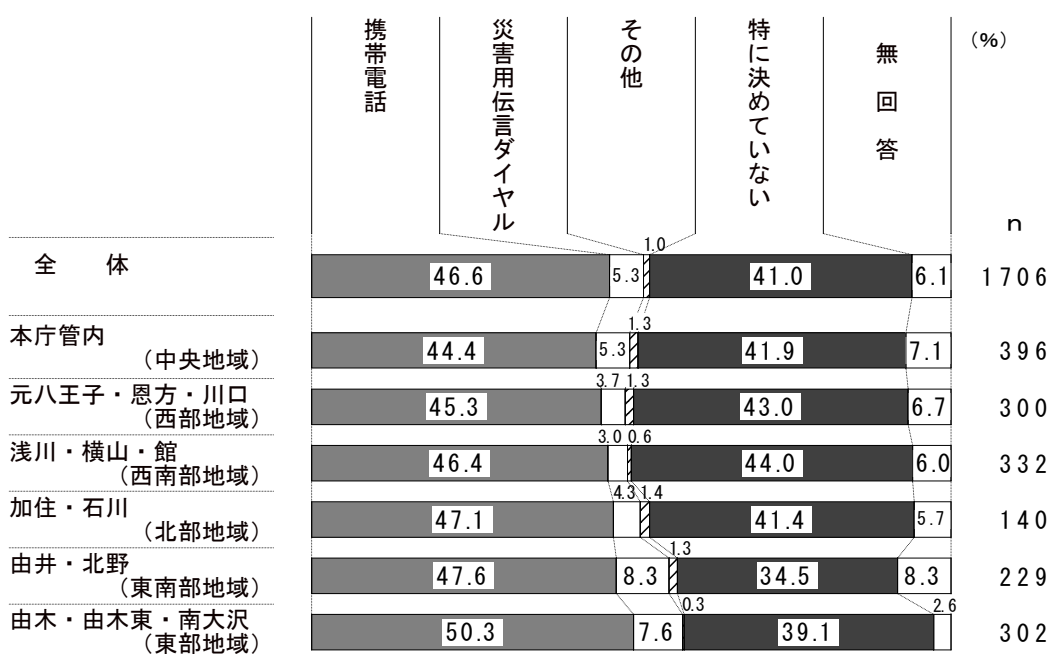
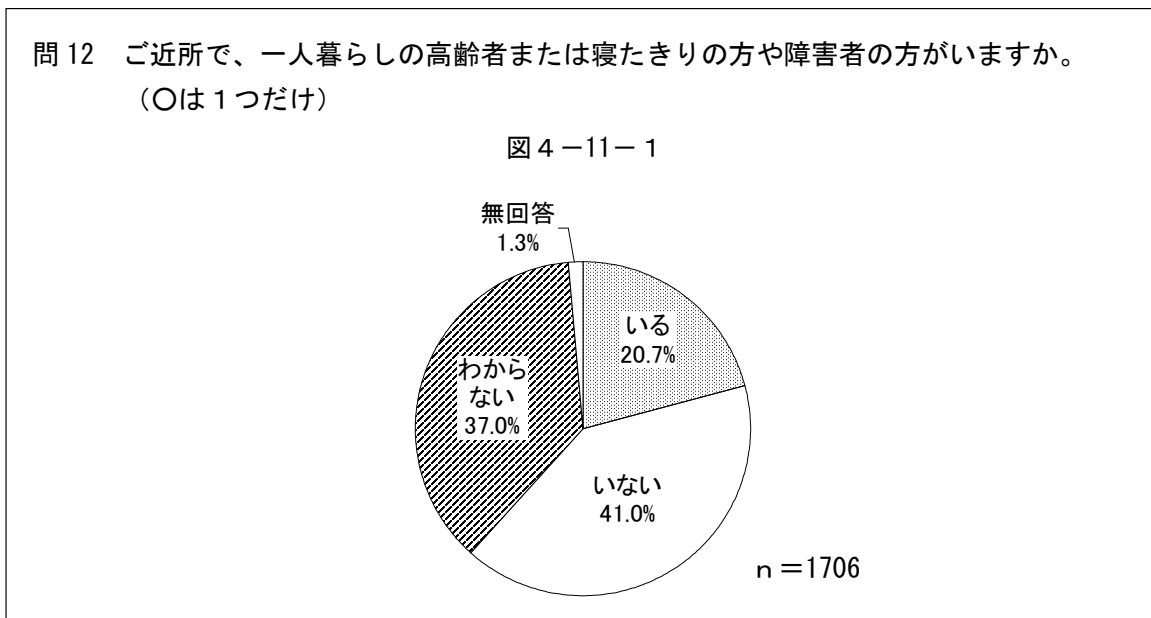


図4-10-3 大地震の時の連絡方法—居住地域別



4-11 近隣の災害弱者の有無

◇「いる」がほぼ2割、「いない」が4割を超え、「わからない」が4割近い

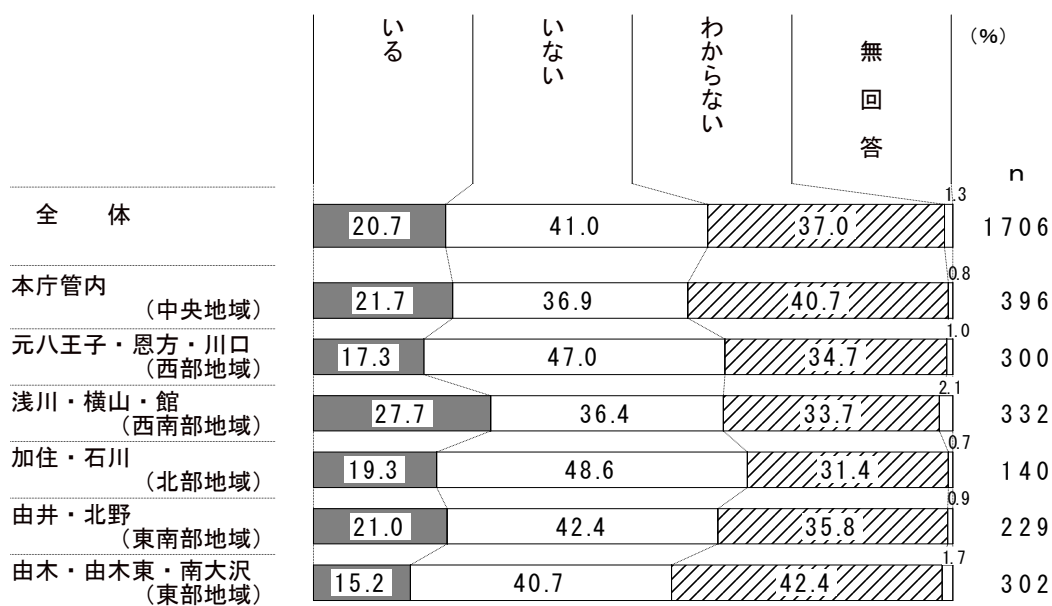


近所で一人暮らしの高齢者または寝たきりの方や障害者の方がいるかどうかについて聞いたところ、「いる」(20.7%)がほぼ2割、「いない」(41.0%)が4割を超える。また、「わからない」(37.0%)が4割近くとなっている。(図4-11-1)

居住地域別にみると、「いる」は浅川・横山・館(西南部地域)で3割近く、「いない」は元八王子・恩方・川口(西部地域)と加住・石川(北部地域)で5割近くと比較的高くなっている。

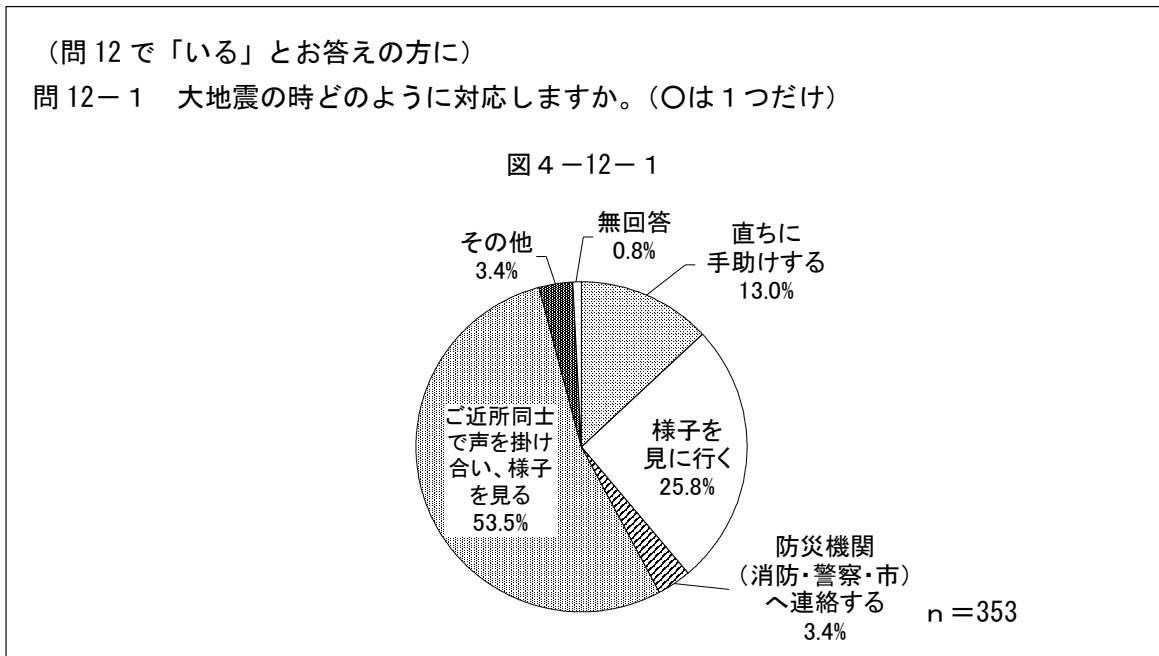
(図4-11-2)

図4-11-2 近隣の災害弱者の有無—居住地域別



4-12 災害弱者に対する大地震の時の対応

◇「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」が半数を超える



近所で一人暮らしの高齢者または寝たきりの方や障害者の方が「いる」と答えた人(353人)に、大地震の時に災害弱者に対してどのように対応するかについて聞いたところ、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」(53.5%)が5割を超え、「様子を見に行く」(25.8%)が2割半ば、「直ちに手助けする」(13.0%)が1割を超え、「防災機関(消防・警察・市)へ連絡する」(3.4%)が1割未満となっている。(図4-12-1)

性別にみると、「様子を見に行く」は男性の方が13ポイント高く、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」は女性の方が16ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「直ちに手助けする」は20歳代でほぼ3割と高く、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」は30歳代で6割を超え高くなっている。(図4-12-2)

居住地域別にみると、「様子を見に行く」は浅川・横山・館(西南部地域)で3割半ばと高く、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」は由井・北野(東南部地域)で6割を超え高くなっている。

(図4-12-3)

図 4-12-2 災害弱者に対する大地震の時の対応—性別・年齢別

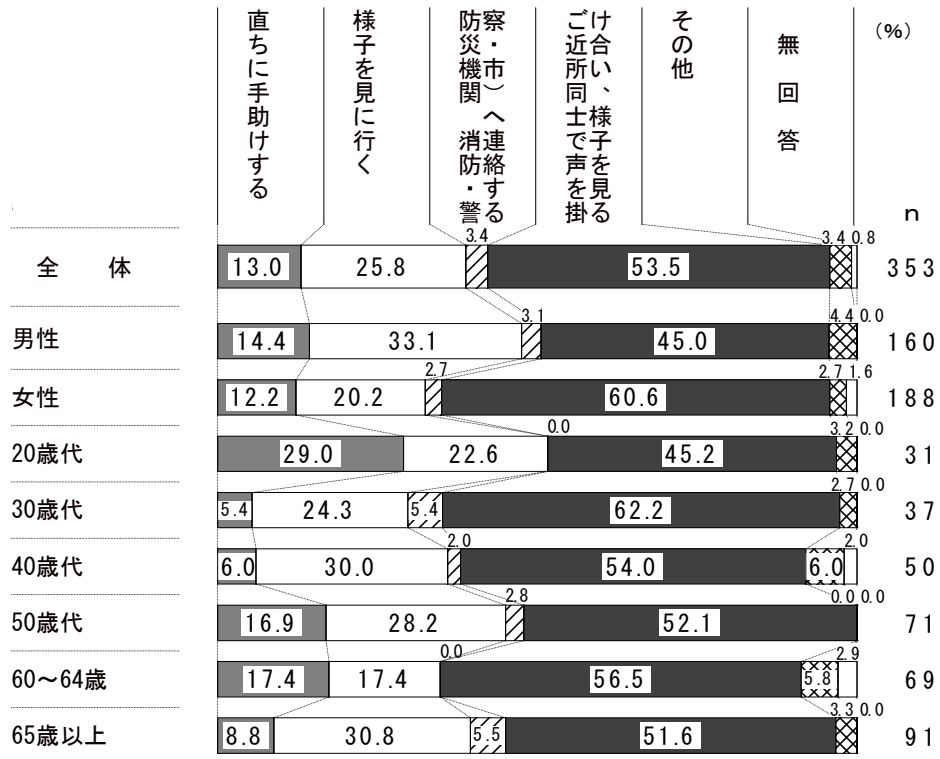
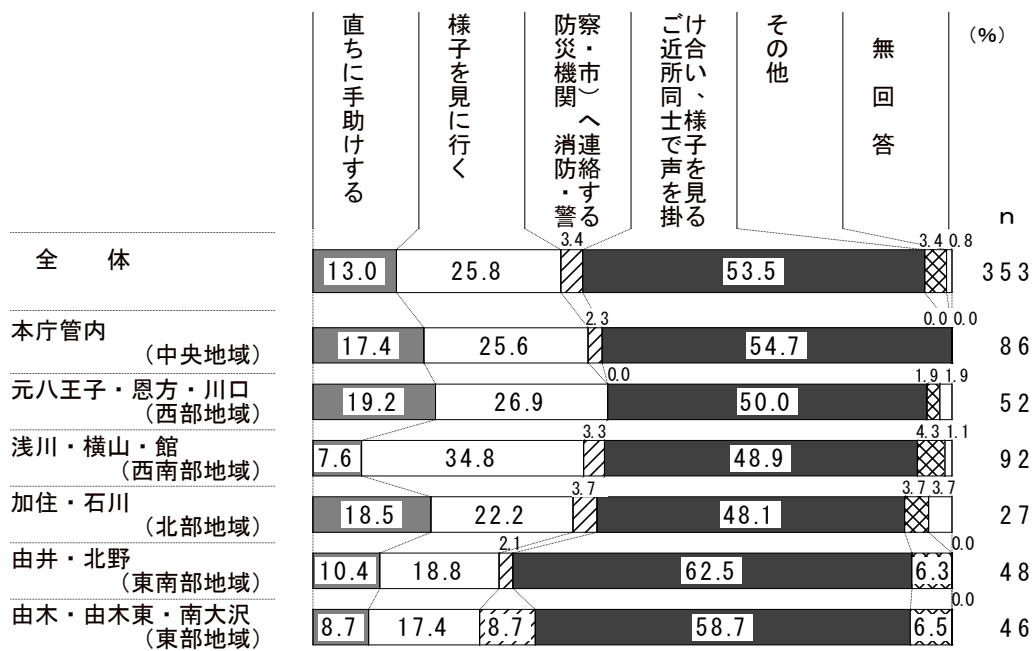


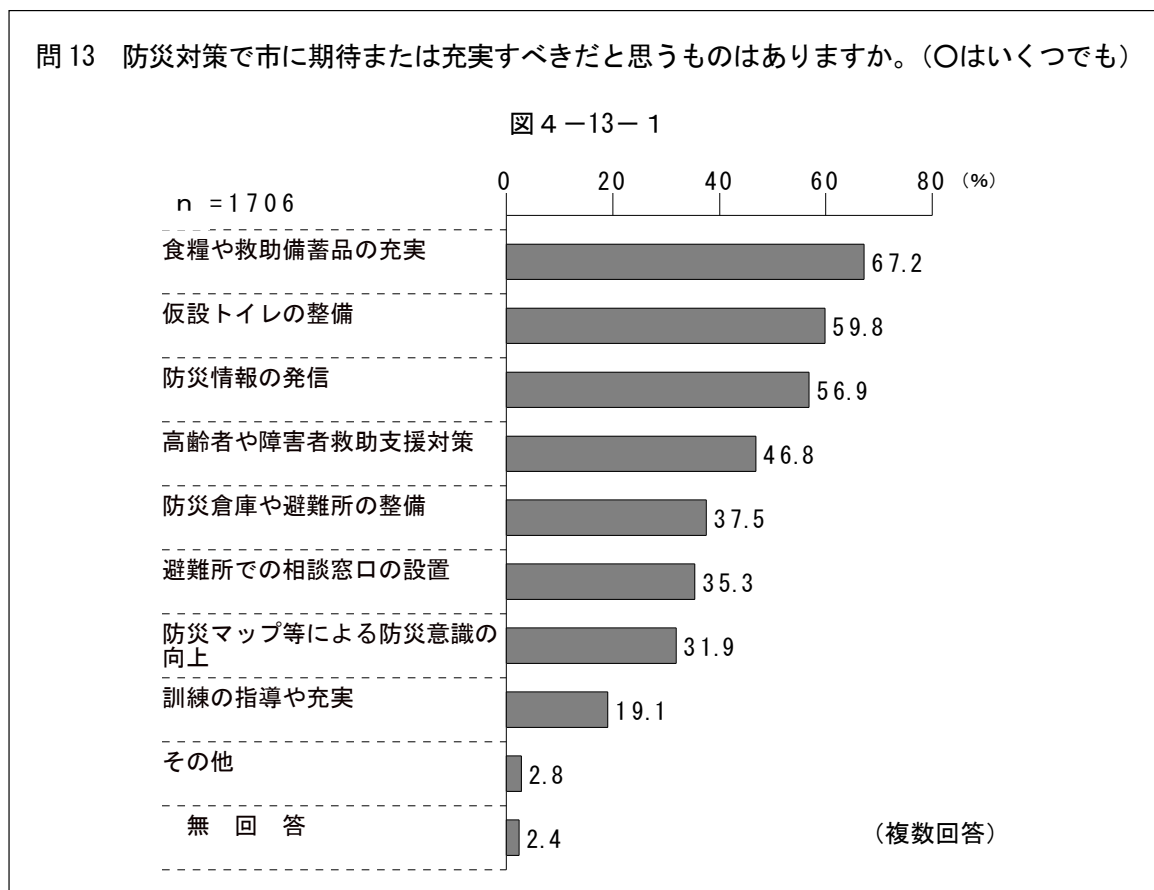
図 4-12-3 災害弱者に対する大地震の時の対応—居住地域別



4-13 市に期待する防災対策

◇「食糧や救助備蓄品の充実」が7割近く

問13 防災対策で市に期待または充実すべきだと思うものはありますか。(〇はいくつでも)

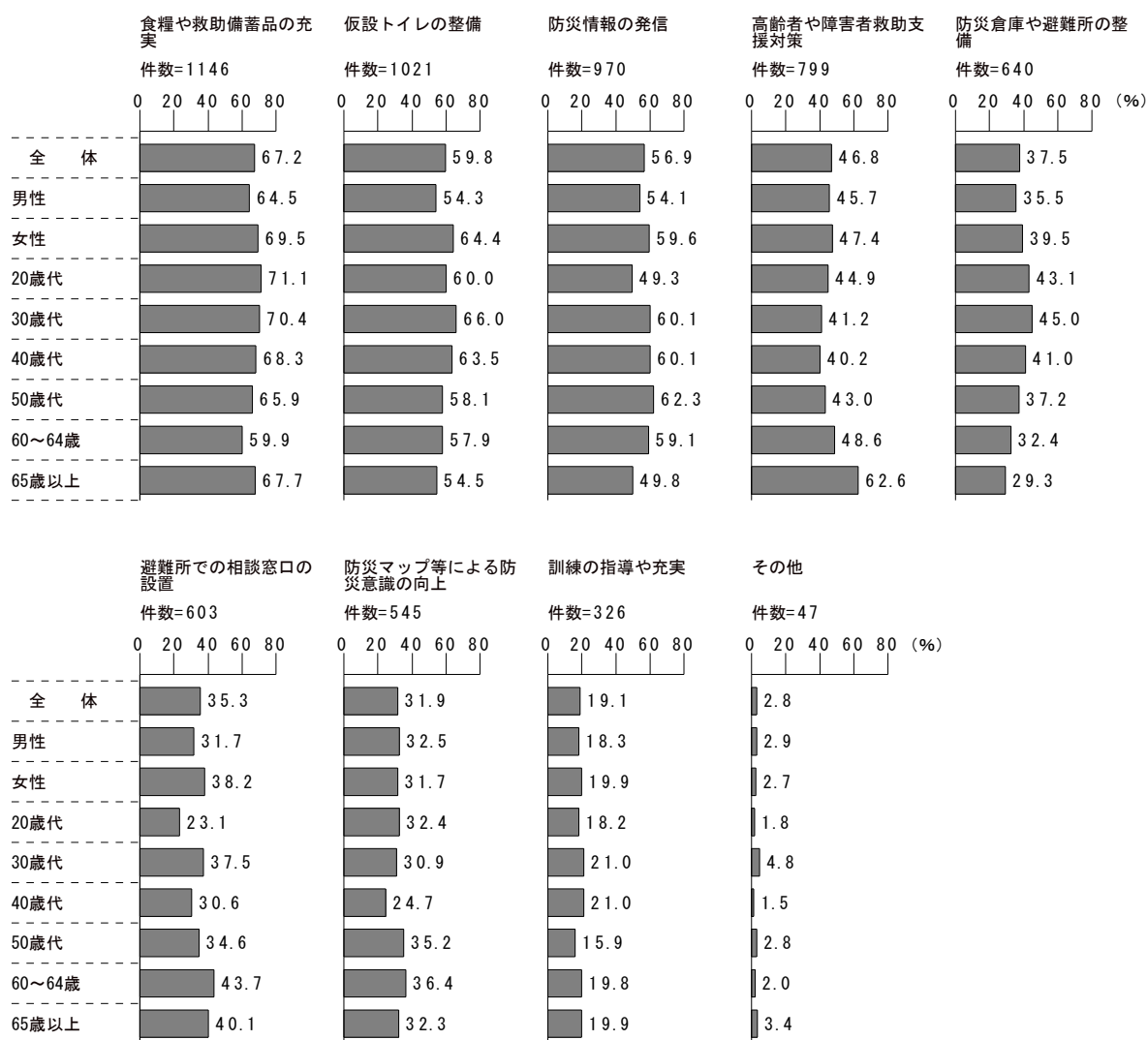


防災対策で市に期待または充実すべきだと思うものについて聞いたところ、「食糧や救助備蓄品の充実」(67.2%)が7割近くと最も高く、次いで「仮設トイレの整備」(59.8%)、「防災情報の発信」(56.9%)、「高齢者や障害者救助支援対策」(46.8%)、「防災倉庫や避難所の整備」(37.5%)、「避難所での相談窓口の設置」(35.3%)などの順となっている。(図4-13-1)

性別にみると、「仮設トイレの整備」は10ポイント、「避難所での相談窓口の設置」は7ポイント、「防災情報の発信」は6ポイント、「食糧や救助備蓄品の充実」は5ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「高齢者や障害者救助支援対策」は65歳以上で6割を超え高い。「防災倉庫や避難所の整備」は低い年代ほど割合が高い傾向にある。(図4-13-2)

図4-13-2 市に期待する防災対策—性別・年齢別

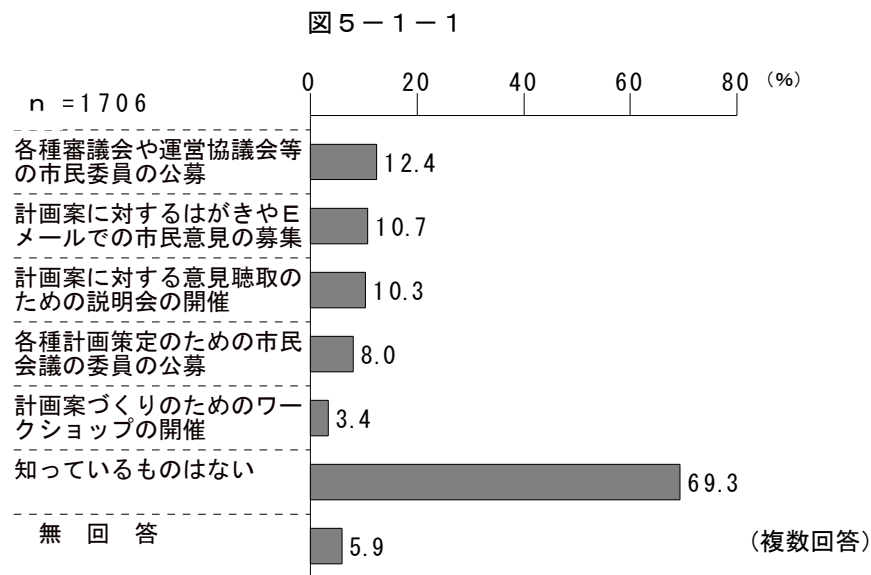


5. 「市民参加のしくみづくり」について

5-1 市政参加のための制度の周知状況

◇「知っているものはない」がほぼ7割と周知度は低い

問 15 市では市民の皆さんに市の政策立案（計画策定や制度づくりなど）や行政運営に主体的に参加していただくために、様々なことを行っています。あなたが知っているものをお答えください。（○はいくつでも）

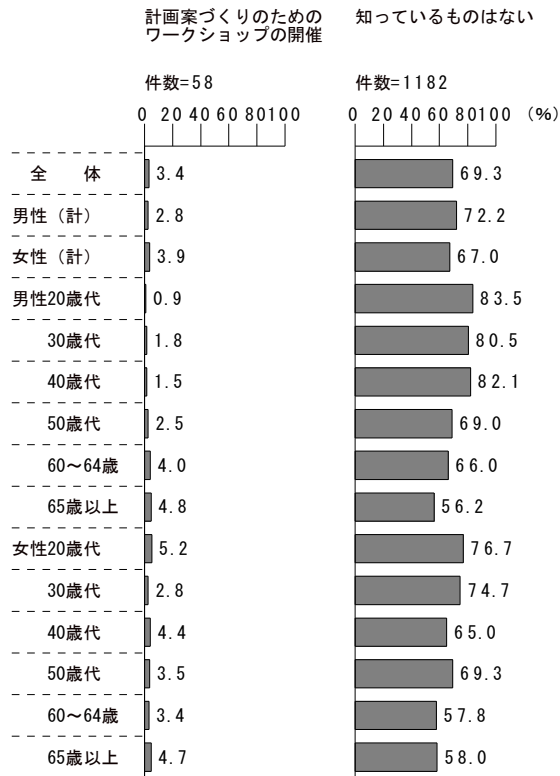
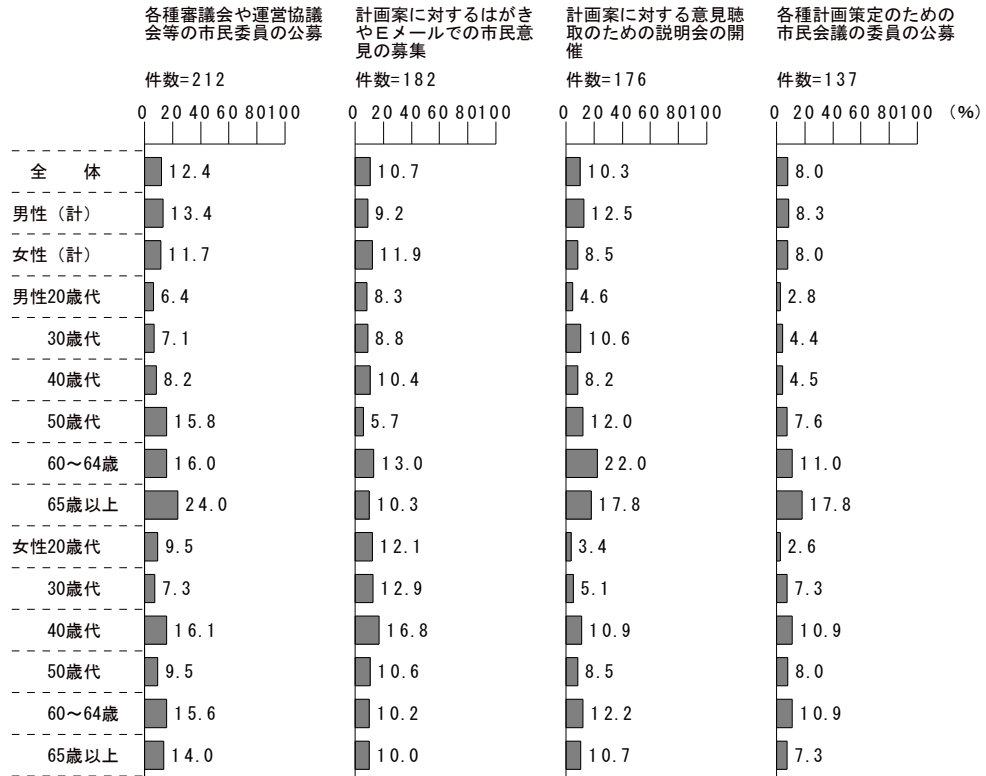


市政参加のための制度について知っているものについて聞いたところ、「各種審議会や運営協議会等の市民委員の公募」（12.4%）が1割を超え、「計画案に対するはがきやEメールでの市民意見の募集」（10.7%）がほぼ1割、「計画案に対する意見聴取のための説明会の開催」（10.3%）が1割、「各種計画策定のための市民会議の委員の公募」（8.0%）と「計画案づくりのためのワークショップの開催」（3.4%）が1割未満となっている。また、「知っているものはない」（69.3%）がほぼ7割となっている。（図5-1-1）

性別にみると、「知っているものはない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「各種審議会や運営協議会等の市民委員の公募」と「各種計画策定のための市民会議の委員の公募」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、「各種審議会や運営協議会等の市民委員の公募」は男性の65歳以上で2割半ばと高い。「計画案に対する意見聴取のための説明会の開催」は男性の60～64歳で2割を超え高くなっている。「知っているものはない」は男女ともに比較的低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の20歳代から40歳代の年代で8割以上を占め高くなっている。（図5-1-2）

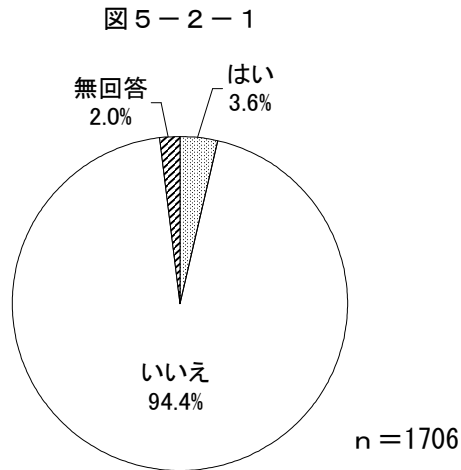
図5-1-2 市政参加のための制度の周知状況—性・年齢別



5-2 市政に関する意見を述べたことの有無

◇ 「いいえ」が9割半ばと多数

問16 あなたは、市の政策立案や行政運営に対して意見を述べたことがありますか。
(○は1つだけ)

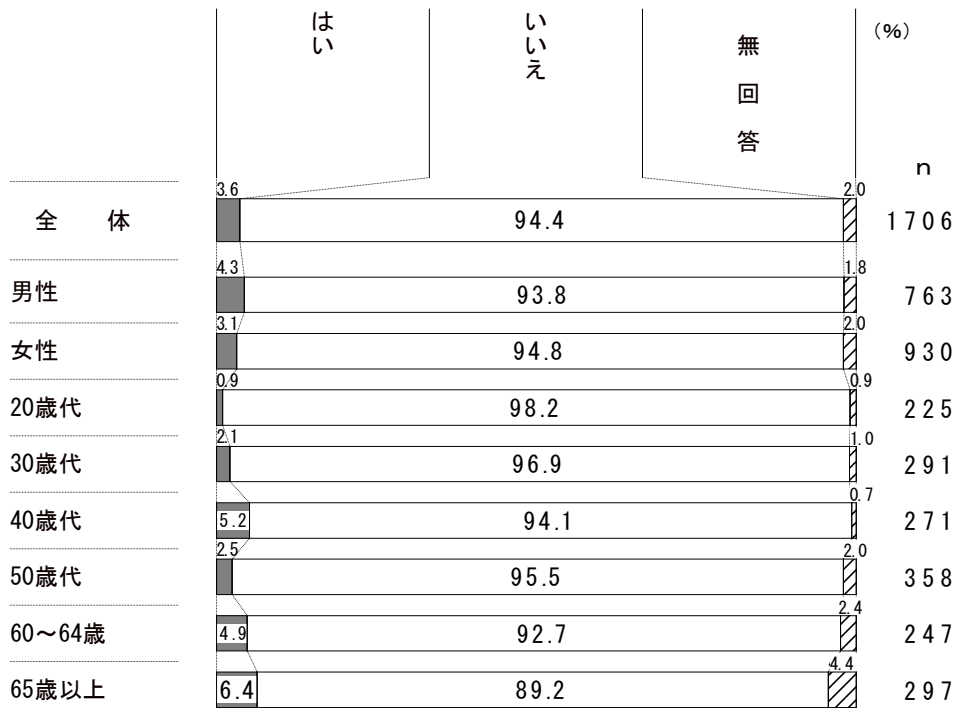


市政に関して意見を述べたことがあるかどうかについて聞いたところ、「はい」(3.6%)が1割未満、「いいえ」(94.4%)が9割半ばとなっている。(図5-2-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

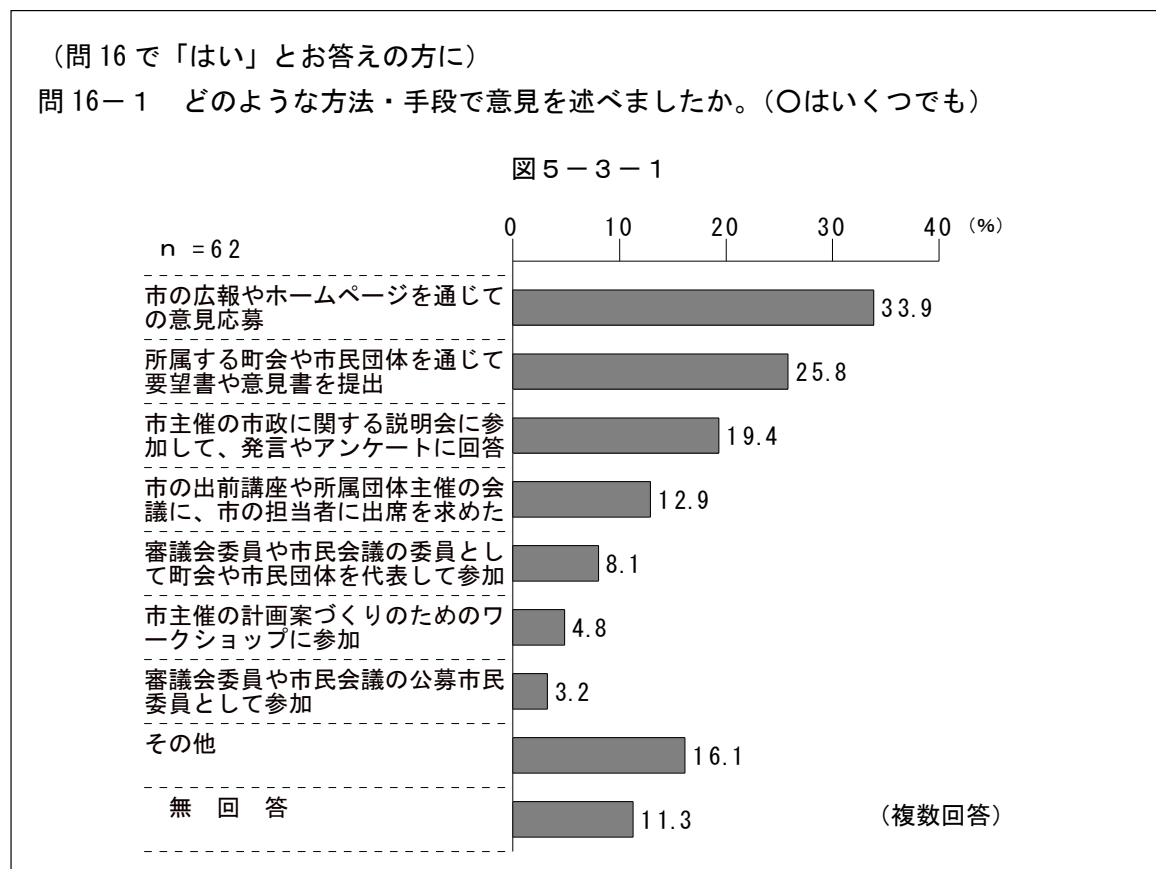
年齢別にみると、「いいえ」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、すべての年代で9割前後と高くなっている。(図5-2-2)

図5-2-2 市政に関する意見を述べたことの有無—性別・年齢別



5-3 意見を述べた方法

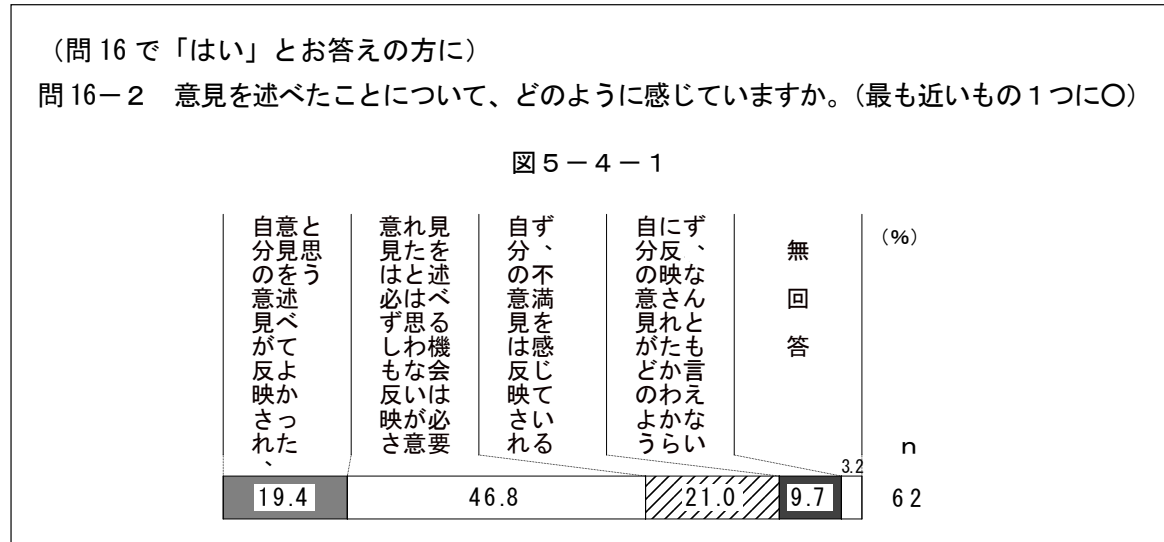
◇「市の広報やホームページを通じての意見応募」が3割を超える



市政に関する意見を述べたことがあるかどうかで「はい」と答えた人(62人)に、どのような方法・手段で意見を述べたかについて聞いたところ、「市の広報やホームページを通じての意見応募」(33.9%)が3割を超え最も高く、次いで「所属する町会や市民団体を通じて要望書や意見書を提出」(25.8%)、「市主催の市政に関する説明会に参加して、発言したりアンケートに回答」(19.4%)、「市の出前講座や自分の所属する団体主催の会議に、市の担当者に出席を求めた」(12.9%)、「審議会委員や市民会議の委員として町会や市民団体を代表する立場で参加」(8.1%)などの順となっている。(図5-3-1)

5-4 意見を述べたことについての感想

◇「自分の意見は必ずしも反映されたとは思わないが、意見を述べる機会が必要だ」が5割近く



市政に関する意見を述べたことがあるかどうかで「はい」と答えた人(62人)に、意見を述べたことについてどのように感じているかについて聞いたところ、「自分の意見は必ずしも反映されたとは思わないが、意見を述べる機会が必要だ」(46.8%)が5割近くで最も高く、次いで「自分の意見は反映されず、不満を感じている」(21.0%)が2割を超え、「自分の意見が反映され、意見を述べてよかったと思う」(19.4%)がほぼ2割、「自分の意見がどのように反映されたかわからず、なんとも言えない」(9.7%)が1割未満となっている。(図5-4-1)

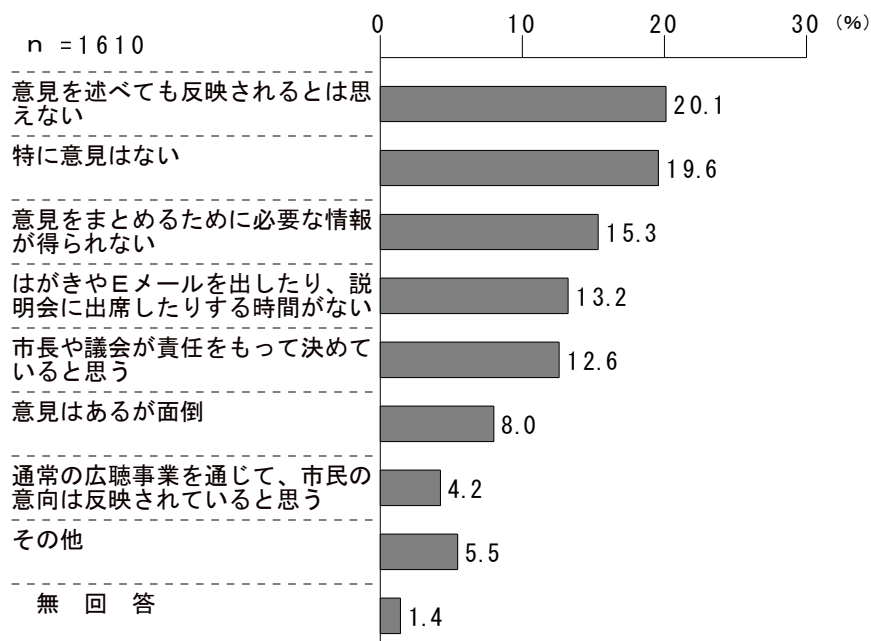
5-5 意見を述べたことがない理由

◇「意見を述べても反映されるとは思えない」が2割

(問16で「いいえ」とお答えの方に)

問16-3 あなたが意見を述べたことがない理由として、最も近いと思うものはどれですか。
(○は1つだけ)

図5-5-1



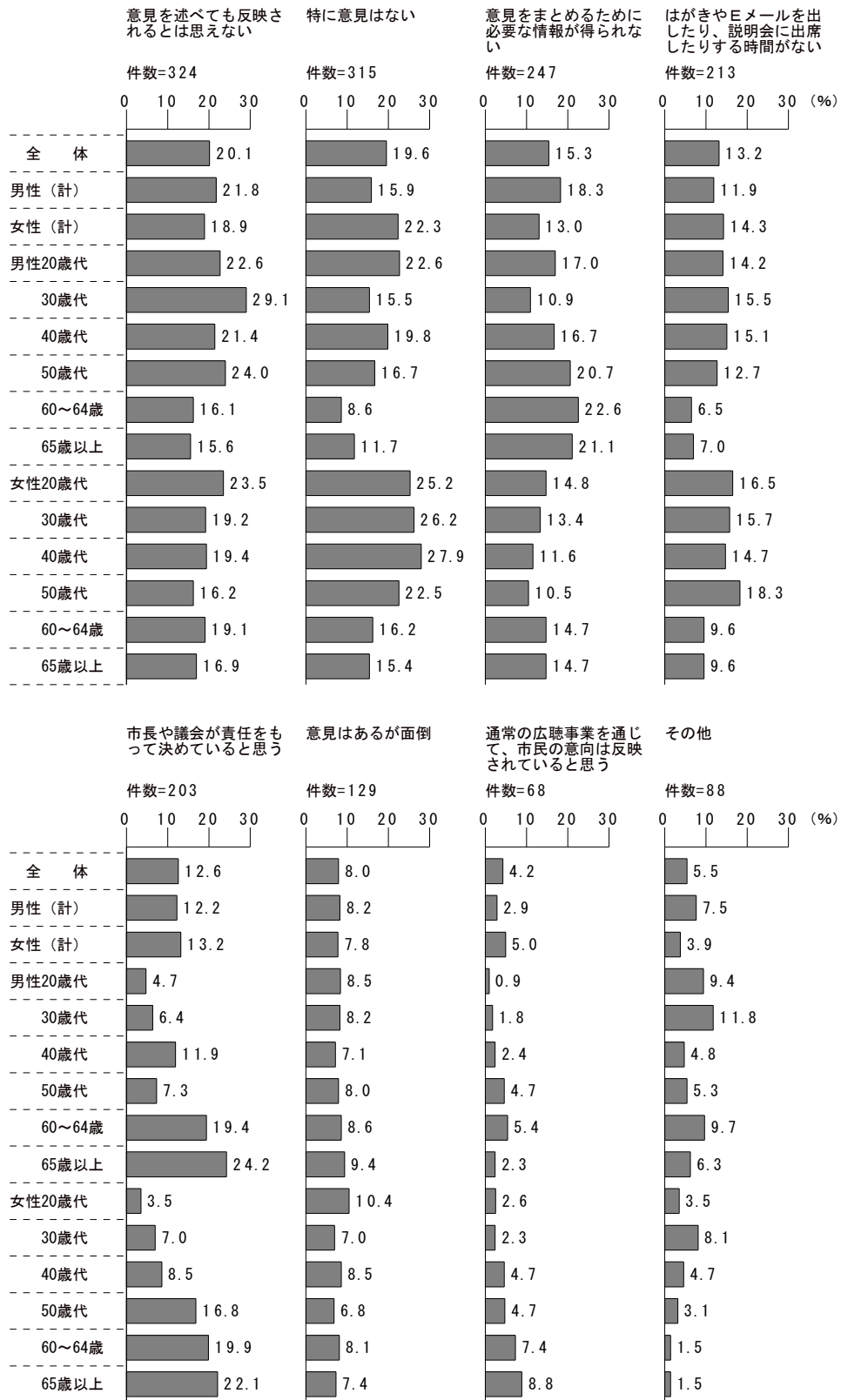
市政に関する意見を述べたことがあるかどうかで「いいえ」と答えた人(1,610人)に、意見を述べたことがない理由について聞いたところ、「意見を述べても反映されるとは思えない」(20.1%)が2割と最も高く、次いで「特に意見はない」(19.6%)、「意見をまとめるために必要な情報が得られない」(15.3%)、「はがきやEメールを出したり、説明会に出席したりする時間がない」(13.2%)、「市長や議会が責任をもって決めていると思う」(12.6%)などの順となっている。(図5-5-1)

性別にみると、「特に意見はない」は女性の方が6ポイント高く、「意見をまとめるために必要な情報が得られない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「意見を述べても反映されるとは思えない」は男性30歳代でほぼ3割を占めて高くなっている。「市長や議会が責任をもって決めていると思う」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、60歳以上の年代で2割から2割半ばを占めて高くなっている。

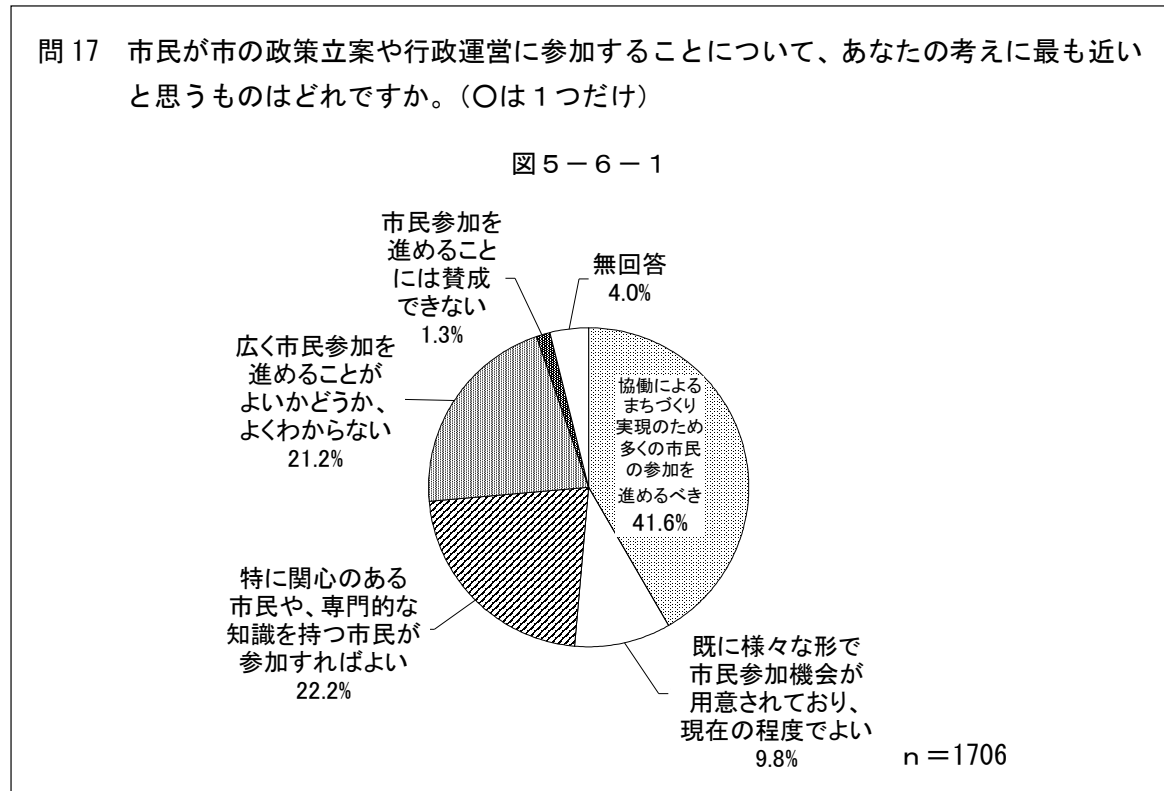
(図5-5-2)

図5-5-2 意見を述べたことがない理由—性・年齢別



5-6 市民が市の政策立案や行政運営に参加することの意識

◇「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」が4割を超える

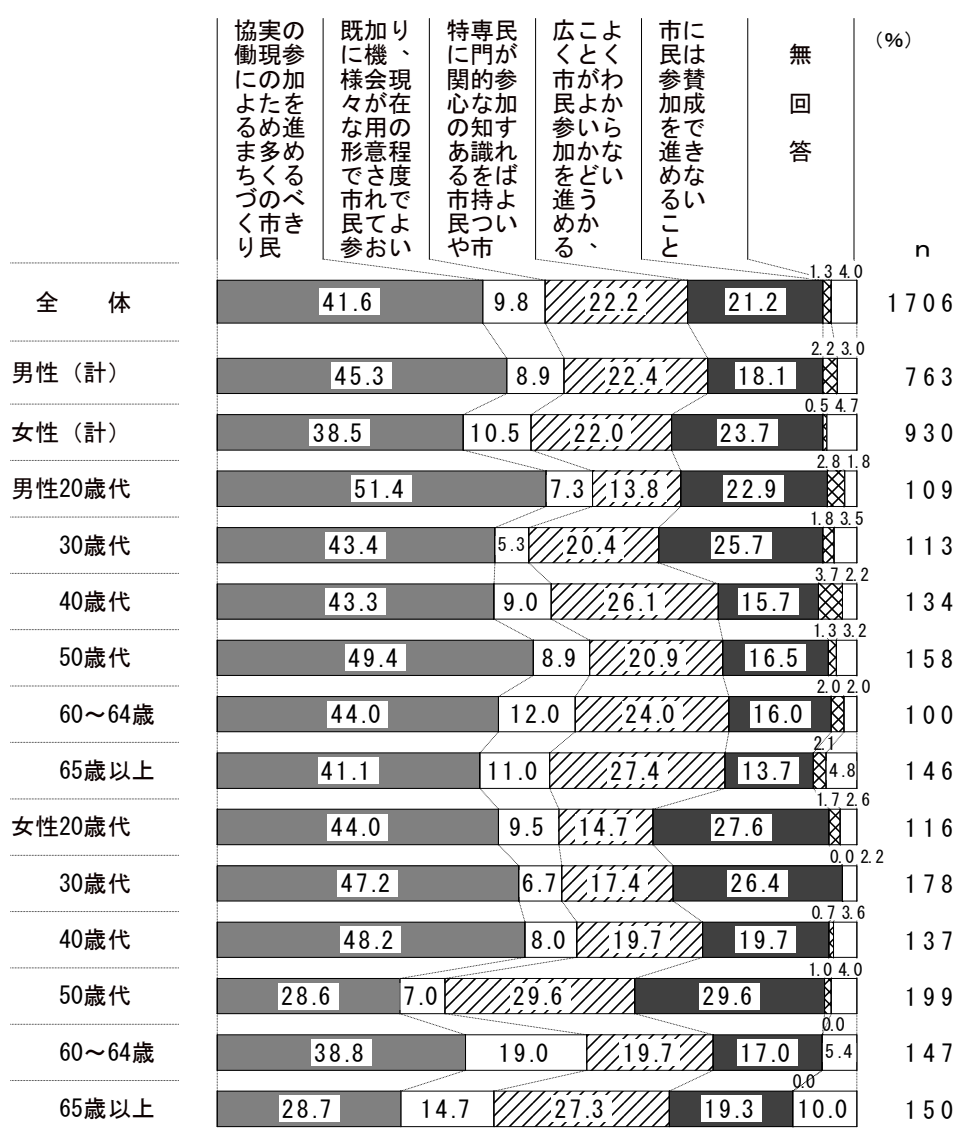


市民が市の政策立案や行政運営に参加することについて聞いたところ、「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」(41.6%)が4割を超え最も高く、次いで「特に関心のある市民や、専門的な知識を持っている市民が参加すればよい」(22.2%)と「広く市民参加を進めることがよいかどうか、よくわからない」(21.2%)が2割を超え、「既にいろいろな形で市民参加機会が用意されており、現在の程度でよい」(9.8%)と「市民参加を進めることには賛成できない」(1.3%)が1割未満となっている。(図5-6-1)

性別にみると、「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」は男性の方が7ポイント高く、「広く市民参加を進めることがよいかどうか、よくわからない」は女性の方が6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」は男性の20歳代で5割を超え高くなっている。(図5-6-2)

図5-6-2 市民が市の政策立案や行政運営に参加することの意識—性・年齢別

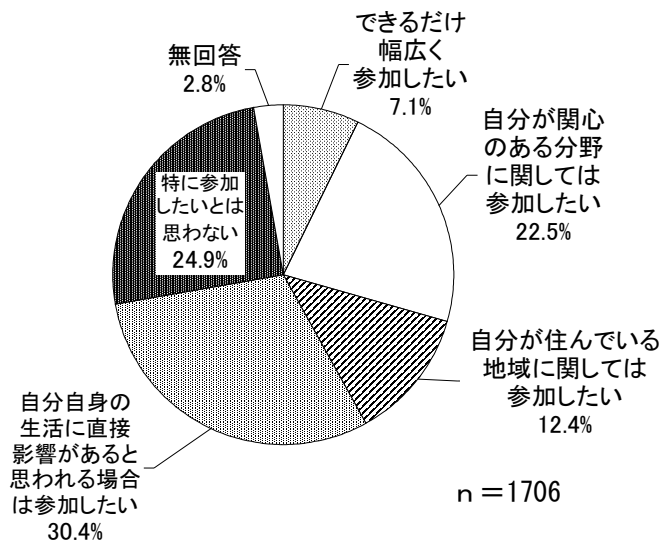


5-7 市の政策立案や行政運営への参加意向

- ◇「自分自身の生活に直接影響があると思われる場合は参加したい」が3割、「特に参加したいとは思わない」が2割半ば

問18 あなたご自身は、市の政策立案や行政運営に参加したいと思いますか。
あなたの考えに最も近いと思うものはどれですか。(○は1つだけ)

図5-7-1



市の政策立案や行政運営に参加したいと思うかどうかについて聞いたところ、「自分自身の生活に直接影響があると思われる場合は参加したい」(30.4%)が3割で最も高く、次いで「自分が関心のある分野に関しては参加したい」(22.5%)が2割を超え、「自分が住んでいる地域に関しては参加したい」(12.4%)が1割を超え、「できるだけ幅広く参加したい」(7.1%)が1割未満となっている。また、「特に参加したいとは思わない」(24.9%)が2割半ばとなっている。

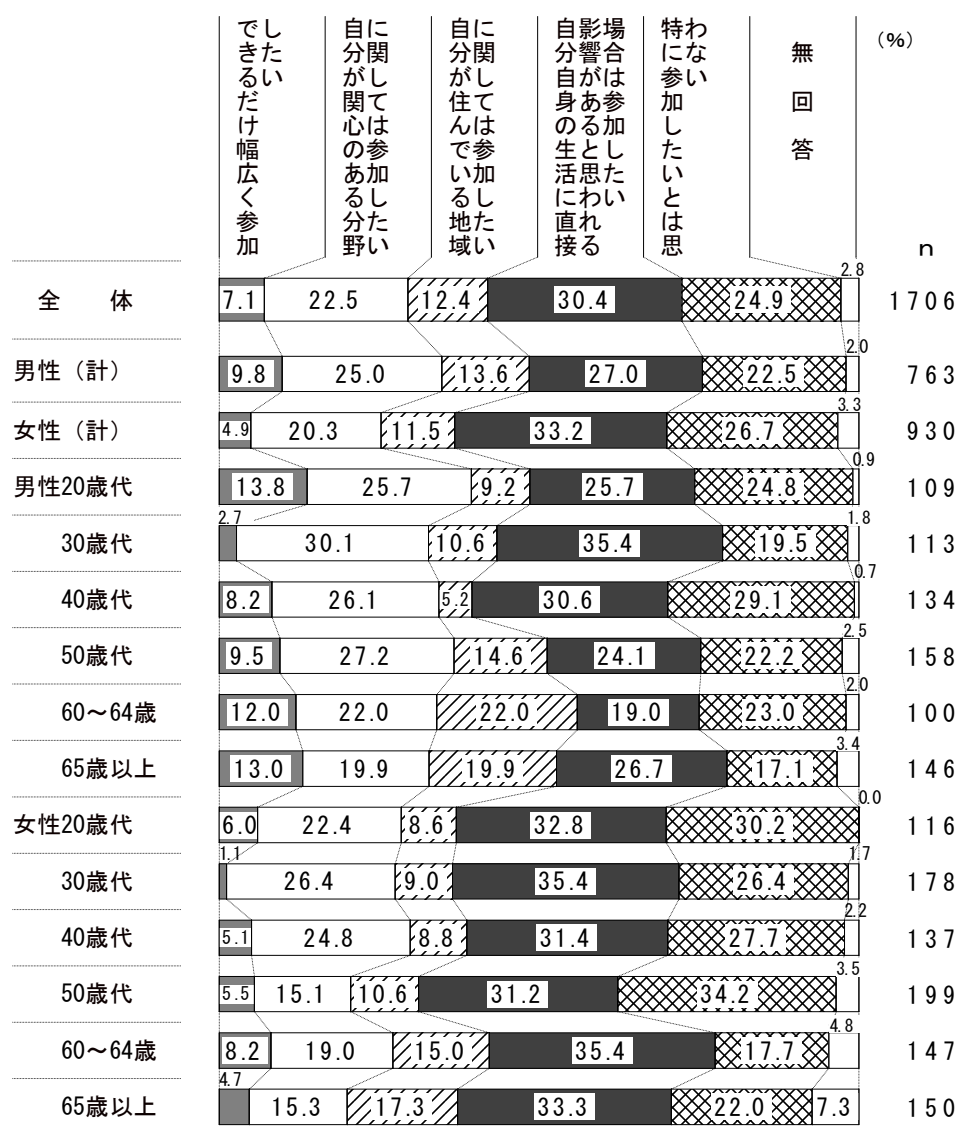
(図5-7-1)

性別にみると、「できるだけ幅広く参加したい」と「自分が関心のある分野に関しては参加したい」は男性の方が5ポイント高く、「自分自身の生活に直接影響があると思われる場合は参加したい」は女性の方が6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「自分が住んでいる地域に関しては参加したい」は男性の60歳～64歳で2割を超え高く、「特に参加したいとは思わない」は女性の50歳代で3割半ばと高くなっている。

(図5-7-2)

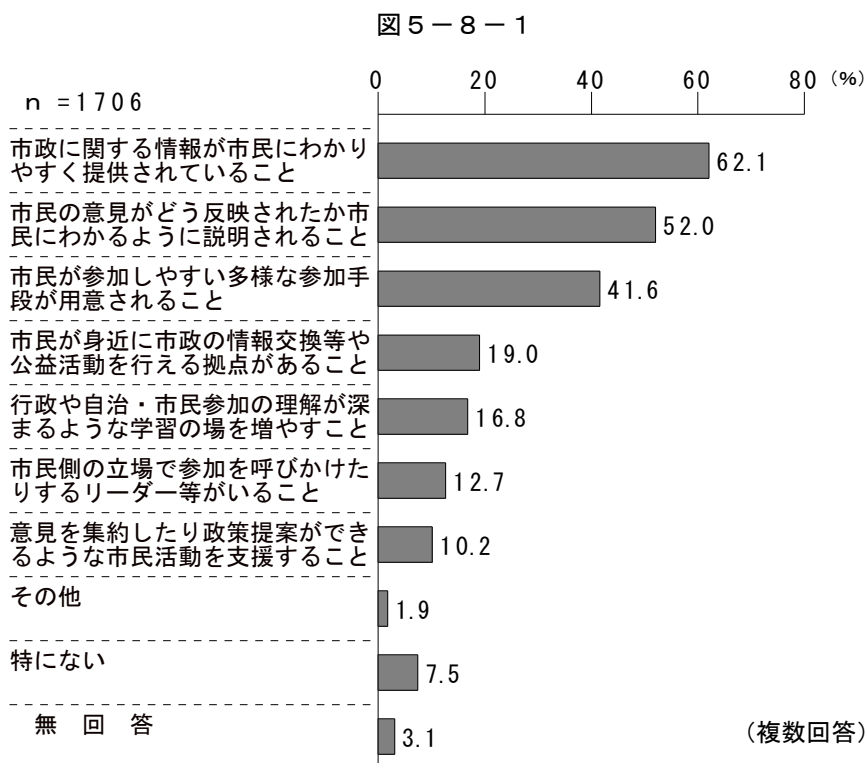
図5-7-2 市の政策立案や行政運営への参加意向一性・年齢別



5-8 市の政策立案や行政運営へ参加するために必要なこと

◇「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」が6割を超える

問19 市民が市の政策立案や行政運営に参加するためには、どのような環境を整える必要があると思いますか。(〇は3つまで)



市民が市の政策立案や行政運営に参加するために整える必要がある環境について聞いたところ、「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」(62.1%)が6割を超え最も高く、次いで「市民の意見がどのように反映されたか市民にわかるように説明されること」(52.0%)、「市民が参加しやすい多様な参加手段が用意されること」(41.6%)などの順となっている。

(図5-8-1)

性別にみると、「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」は女性の方が5ポイント高く、「市民が参加しやすい多様な参加手段が用意されること」は男性の方が5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」は女性の20歳代と30歳代で7割以上と高くなっている。「市民が参加しやすい多様な参加手段が用意されること」は男性の20歳代で5割半ばと高くなっている。「行政のしくみや自治・市民参加についての理解が深まるような学習の場を増やすこと」は男性の60～64歳で3割近くと高くなっている。

(図5-8-2)

図5-8-2 市の政策立案や行政運営へ参加するために必要なこと一性・年齢別

